



Title	住民の公民館利用とその意識：北海道栗山町の事例研究
Author(s)	高倉，嗣昌
Citation	北海道大學教育學部紀要，16，33-65
Issue Date	1968-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29046
Type	departmental bulletin paper
File Information	16_P33-65.pdf



住民の公民館利用とその意識

——北海道栗山町の事例研究——

高 倉 嗣 昌

概 要

本稿は、夕張郡栗山町において、主に農村地域住民を対象として公民館の利用状態と公民館意識についてアンケート調査を行なった結果の報告である。

栗山町は、町の末端まで公民館活動を普及させ、もって部落づくりの一助とするべく、中心市街地以外の主な市街地をその勢力圏を対象地域とする地区公民館2館、各小学校区を対象とする地区館10館、部落・農事組合の範囲を対象とする分館45館を建設したり指定したりした。これほど公民館を濃密にもっている町村は北海道内では類例がなく特異な存在である。特に分館が町内くまなくおかれている点が目立つが、これは住民のもりあがりというよりも、教育委員会が上からの力で編成した側面が強い。

このような上からの力による部落会館の公民館化を住民はどのようにうけとめたのか。その結果意識的な面はどのような水準にあるか。分館化によって複雑になった公民館の編成をいかにして簡略化していくかという三つの問題意識をもって調査を行なった。

調査の結果、住民は部落会館が分館に指定されたことをよこんでおり、よくなったという点も数多く指摘された。しかし分館の利用内容、活動計画の認知度などをみると、公民館分館活動をまだ充分理解しているとはいえない。公民館活動のもつ開放的な面や折目の正しい面はたしかに理解しているが、活動を通じて学習活動を高め自主性を養成するというより重大な側面の理解度はまだ低いといわざるをえない。

公民館の数をふやしたために複雑化した公民館の編成を簡略化する場合、分館は既に住民の中に全く定着しており廃止することはできないし、小学校におかれている地区館も学校教育に近い公民館活動の場としての役割をはたしており、解消することができない。結局市街地中心の公民館を充実させて、対象地域にある分館の指導助言にあたったりするようにすることが最も必要なことになってくる。

公民館活動は住民にとって彼等の学習計画をみたしてくれるかけがえてないものであることを彼等は承知しているが、彼等の全生活の次元からみると、まだまだ優先する事柄が多い。栗山町の方式は住民に公民館をなじませることにはたしかに成功したといえるが、更に意識を高めていくには、いろいろな壁がひかえている。

目 次

序	本研究の意図	(3)	男女別年齢別未婚別回答数
第1章	栗山町の概要及び公民館活動	(4)	最終学歴
1	栗山町の概要	(5)	分析の指標
2	中心市街地外地域の概要	第3章	各公民館の利用状態
3	栗山町における公民館活動	1	中央館・地区館の利用状態
第2章	調査方法と回答者の属性	(1)	中央公民館の利用状態
1	調査対象と方法	(2)	南部公民館の利用状態
2	回答者の属性	(3)	中部公民館の利用状態
(1)	部落別回答者数	(4)	小学校区単位の地区館の利用状態
(2)	農家の経営耕地、粗収入	2	分館の利用度と利用目的

(1) 分館の利用状態

(2) 分館の利用目的

第4章 地区館・分館の評価

1 地区館（小学校区単位）の住民の評価

(1) 分館に対する指導助言機関としての地区館

(2) 地区館の役割

2 分館に対する住民の評価

(1) 分館に指定されたことについての評価

(2) 指定されてよかったと思う点

(3) 指定されてわかったと思う点

(4) 分館活動計画の認識度

第5章 公民館のあり方と活動の範囲

1 住民の考える公民館のあり方

(1) 公民館までの距離と設備について

(2) 公民館活動中の学習とレクリエーションの関係

(3) 教育委員会が分館に行う援助のやり方について

(4) 意識水準の総合的評価

2 公民館活動の範囲

第6章 学習と公民館活動

1 得たいと思う知識技術

2 特に学びたいと思う事柄とそれを学ぶ場所

(1) 特に学びたいと思う事柄

(2) 学習に利用する機関

第7章 むすび

1 各質問項目のまとめ

2 本研究の課題に対する回答

3 公共施設充実の中の社会教育施設

序 本研究の意図

最近顕著にみられる人口の都市集中のうらには、広大な人口減少地域がある。北海道もその例外ではない。

こうした人口減少を非常に大問題としてとらえ、これをとにかくくいとめようとする考えが一方にある半面、人口減少そのものはさして大問題とは考えず、むしろ残った数少ない人々が、豊かで楽しい生活を送りうるようにすべきだとする立場がある。

前者の課題を解決するには経済的環境の改善によるところが圧倒的なものに対し、後者は経済的環境もさることながら文化的な面も強調され、教育の果たす役割も大きい。そして教育の立場から考えても、まことに重大な課題といわなくてはならない。

ところで人口減少の多くは町村部にみられるが、その町村の中をみると、市市街地の人口は増加しているか又は減少していても率は高くなく、周辺地域にその減少の主因がある場合が多く、それだけ大きな変動にさらされている。したがってそこにはとりくまなくてはならぬ課題も多いが、このような変動をのりこえて明るい部落づくりをし、住民の文化水準の向上をはかることも重大な課題の一つであろう。これはとりわけ社会教育の分野が主にとり組むべき課題である。

そして周辺の人々にとって社会教育の重要な場として公民館がある。交通網の整備やマス・メディアのめざましい発達にも拘らず、教育の機会に恵まれているとはいえない周辺地域においては、公民館は教育の機関としてまことに重要な立場にある。しかも公民館は単なる施設ではなく、本来そこには理想が存在する。単に会場を提

供するだけでなく、単に技能教育をするだけではない。それは人間の意識や意欲の面にもふれるより深いものであり、住民の自主性をやしなっていくことがその根底に存在する。

つまり、住民を公民館活動にまきこみ、その過程で公民館を理解させることが、住民の意識の向上、自主性の向上にむすびつける第一歩であり、近道でもある。そして部落ぐるみで公民館活動を行なうようになれば、部落づくりにもおおいに効果があるであろう。

このような発想の下で、公民館活動の普及を周辺地域住民に対して徹底して行なった町がある。それが今回調査した夕張郡栗山町である。

公民館活動に住民を参加させていくはたらきかけは、いろいろなやり方があるが、町の中心に設備の充実した公民館をたて、そこを中心として質的に高い活動を行なっていく方法がまず考えられる。しかしこの方法は、周辺地域の人々すべてが公民館活動をなしうようにする方法としては充分とはいえない。当然拠点をふやして、周辺地域住民の利用の機会を多くすることが考えられる。小学校区単位に公民館をおいている町村は数多い。又、更に拠点を多くして部落単位に公民館をおくところも数ある。栗山町もそうした町の一つであるが、栗山が他の町村と比較して特異なのは、部落の集会所はもとより農事組合単位の集会所まで公民館に指定したことである。そしてその他に周辺地域の全小学校にも公民館をおいている。全道的にみると狭い部類に属する町村で、これほど数多い公民館を指定しているところは他に例がない。

施設は貧弱でも、公民館の密度を高くして気がるに住民が公民館を利用し、公民館活動ができるようにするこ

とによって、公民館の理想を住民に訴えようと努力が重ねられてきた。

こうしたやり方は、下からよりあがってできたものではなく、むしろ上からの力でなされてきたのである。

住民はこのような方法による上からのなげかけをどのようにうけとめたのであろうか。

以上のような問題意識のうえにたって、住民に対するアンケート調査を行ないそれをまとめたのが本稿である。

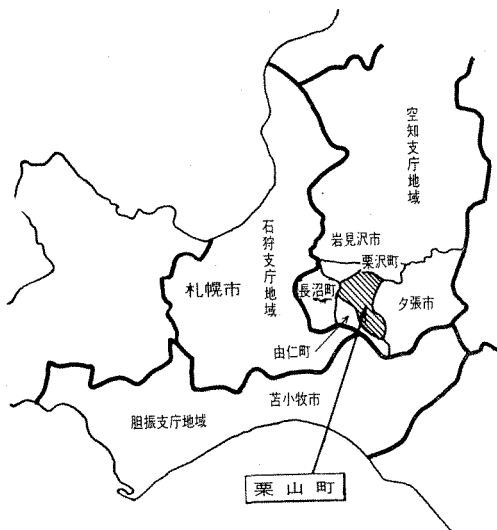
調査票の作成にあたっては栗山町社会教育主事である佐藤遼氏の助言をうけた。又実際の調査の大部分は、佐藤氏及び、社会教育係長の中島卓氏、社会教育係の管野和夫、小笠原善吉の各氏の手によってなされた。他に、実吉教育長をはじめとする教育委員会関係の方々にも多大の御協力をいただいた。ここに謝意を表する次第である。

第1章 栗山町の概要及び公民館活動

1 栗山町の概要

調査対象地域である夕張郡栗山町は、図1-1に示すように、空知支庁地域の南部に位置し、南西は夕張川を挟んで由仁町と、西は同様に長沼町と、東は空知山地をこえて夕張市と、北は屈足の丘陵をへて栗沢町と接している。東西に短かく、南北に長い町であるが、北部は東西が広いのに対して南部はせまく、型では南に行くほどすぼんだようになっている。したがって北部、中部は

図1-1 栗山町の位置



夕張川への支流による平野が開けているが、南部は山がせまっていて夕張川本流ぞいに細長い平坦地があるにすぎない。面積は、203.3km²で、全道市町村の平均面積362km²よりかなり狭い。

この町の歴史は明治21年宮城県角田郷の人々が入植したのにはじまるが、同23年角田村と称し、同33年現在のおよそ南半分が由仁戸長役場から独立し、角田戸長役場となった。明治35年2級町村制を施行、同39年現在の北半分を編入して、翌40年一級町村制が実施された。昭和24年町村制を施行し、角田村を栗山町と改称、同38年現在の字角田から最大の人口密集地である栗山に役場を移庁して現在に至っている。

なお昭和34年には社会教育モデル町村の、同35年北海道新生活運動推進町の指定をうけており、昭和37年には農業構造改善事業実施地域にもなっている。

人口は昭和40年の国勢調査によると21,908人である。昭和35年から5年間に4.8%の人口減を示している。これは全道町村部の人口減少率と同じである。

産業人口をみると、昭和40年の国勢調査の結果、就業人口は10,409人であったが、表1-1に示すように、第

表1-1 産業別人口構成

	道内町村部	栗山町
第I次産業比率	46.9%	40.5%
第II次産業比率	21.5%	26.3%
第III次産業比率	31.6%	33.2%

昭和40年国勢調査

I次産業人口が40%を占める。全道町村の平均より第I次産業就業者の比率は7%ほど低く、第II次産業人口が有力である点が指摘できる。今回対象とするのは、主に市街地の外に住んでいる人々で、第I次産業就業者である。

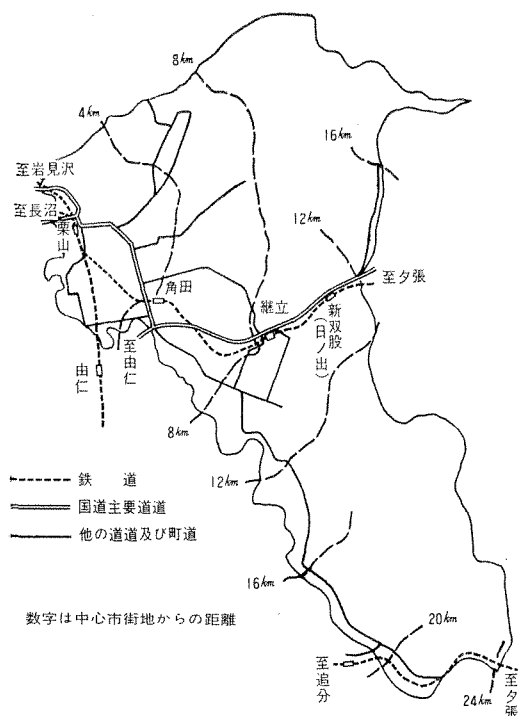
財政をみると、41年度決算では一般会計が5億3千万円であった。自主財源（財政負担力指数）^(注1)は42.8%で、全道町村平均よりかなり高率であるが、町村が年々自由に使用できる経費（普通建設事業費）を除いた経常費の割合（経常収支率）^(注2)は76.3%で、全道町村平均に近い。教育費は1億1千万円で全体の22%を占めるが、社会教育費は5百万円で全教育費の5%に満たない。

交通面は、図1-2に示した。鉄道は国鉄室蘭本線が町の西端を通っており、栗山駅がある。ここから夕張鉄道線が分岐して町の中部を横断しており、この町の主要

注1) 財政負担力指数 = $\frac{\text{町村財政負担力}}{\text{町村の財政需要額}}$

注2) 経常収支率 = $\frac{\text{町村の予算(決算)総額} - \text{普通建設事業費}}{\text{町村の予算(決算)総額}}$

図1-2 町の交通事情



な四つの市街地、角田、継立、日の出を結んでいる。

道路は、室蘭本線とほぼ平行して町の西部を岩見沢から苫小牧に至る国道が通っており、角田市街から分岐して夕張に至る道々が横断している。この道路は約30分に1度バスの便がある。この他角田市街から夕張川ぞいに町の南端に達する道々があり、この3本の道を中心に国道が交叉しているが、図に示した町道の大部分にバスの便がある。町の北部、中部は交通の便が非常によいが、南はかなり条件が悪い。南端に国鉄夕張線が通っているが駅はない。

2 中心市街地外地域の概要

表1-1からもわかるように、この町には都市的な産業がかなりの比重を占めているが、この大部分は最も大きい市街地である栗山に集中している（この市街地を以下中心市街地と称する）。この市街地はかなり大きく、昭和40年の国勢調査によると、総理府統計局が設定した人口集中地区の基準に適合している^(注3)。今回調査対象となるのは中心市街地外の人々である。そこで、人口集中地区外の地域の状態を40年国勢調査結果から主な点をひらってみよう。

人口集中地区外には全町の66.7%にあたる14,620人の人口があるが、15歳以上の人口はそのうち10,513人、労

表1-2 人口集中地区外の産業別就業人口

	男	女	計
就業人口	4,269	2,875	7,144
第I次産業	2,035	2,112	4,147
第II次産業	1,302	254	1,556
第III次産業	932	509	1,441

昭和40年国勢調査

(単位 人)

表1-3 経営耕地規模別生産農家数

	0.1未満	0.1～0.99	1～2.99	3～4.99	5～9.99	10～19.99	20以上	計
戸数	3	95	181	500	527	34	2	1,342
率	0.2	7.1	13.5	37.3	39.3	2.5	0.1	100.0

昭和41年農業基本調査

(単位 ha)

働人口はその68.5%である（男性82.8%、女性54.5%）。産業別就業人口は表1-2に示すように、就業人口7,144人の58%にあたる4,147人が第I次産業就業人口である。第I次産業就業人口の状態を男女別にみると、男性2,035人、女性は2,112人を占め、全就業人口に対する比率では、男性が47.7%、女性が73.5%を示している。

この第I次産業就業人口中林業に従事する者は90人にすぎず大部分は農業就業人口である。

人口集中地区外の最大の産業である農業の状態をみよう。現在およそ7,000haの農用地があるが、水田と畑が主で、ほぼ半々である。41年の作付面積をみると、水田作付は3,112ha、畑作付は2,613haで、水田の方が多い。又経営型態別の農家数をみると、田作が49%、田畑作が28%で、畑作は18%、酪農は2%にすぎない。経営耕地規模別農家戸数をみると、表1-3のように、全体の4分の3は3～9.99haの耕地をもっている。専業、兼業の別では、専業農家が80.8%を占め、兼業でも第一種兼業農家が全体の13%で第二種兼業農家を上廻っている。

以前は畑作が有力であったが、最近急速に造田が進み、現在のところこの町の農業は農業専業によるかなり安定した水田農村といえることができる。

3 栗山町における公民館活動

町の教育のもっとも重要な教育委員会は、役場の中におかれている。教育長、教育次長のもとに、社会教育、学校教育、庶務の各係があり、教育長、次長を除く常勤

注3) 人口集中地区とは、(1) 昭和40年の国勢調査区を基礎単位地区として用い、(2) 市町村区域内で人口密度の高い調査区（人口密度1平方キロメートルあたり4,000人以上）が隣接して、(3) 昭和40年国勢調査が設定された昭和34年10月1日現在5,000人以上を有する地域を構成する場合をいう。昭和40年人口集中地区の場合

者8人でまかなっている。そのうち社会教育関係者は4人おり、1人は社会教育主事で、残る3人は社会教育係長と事務職員である。2人の事務職員のうちの1人は、社会教育主事になる資格をもっている。したがって、教育委員会自体のもつ社会教育に対する指導・助言の態勢は、この規模の町としては低い方ではない。

他に、南空知地区の視聴覚ライブラリーが教育委員会内にあり、町独自の給食センターもある。また青少年会館も本年度頭初に完成している。

公民館についてみよう。中央公民館は、役場から西に約500mほどはなれたところにある。木造モルタル平屋、75坪のごく小規模なものである。管理人がいるのみで、平素指導助言にあたる担当者はおらず、その役割は教育委員会が直接負っている。実質は別として形式的には全町公民館の中心施設であり、町の公民館運営審議会がある。

このように、中央公民館は教育委員会からきりはなされた貸館的な存在であるが、中心施設の充実がさげば、現在役場に隣接して中央公民館を建設中である。

栗山町の公民館施設は非常に複雑であり、中央館と分館の中間的存在である地区館に二つの種類のものがある。

一つは、中心市街地以外の主な市街地とその勢力圏にある部落を対象地域とした地区館で（以下市街地中心の地区館と称する）、中央館に次いで広い対象地域をもつ。

この種の公民館は現在南部公民館と中部公民館があるが、その設置の動機、経過は両者の間で大きく異なる。

南部公民館は、この町第2の市街地である継立（つぎたて）市街地にあり、現在阿野呂川中流、上流域とそれ以南の地域全体をその対象地域としている。この館が開設されたのは昨年のもので、その設置の理由は主に次の2点が考えられる。その1は、中心市街地のある栗山は町の最も西北のはしにあり、図1—2に示したように、中心市街地から遠くはなれた地域がかなり存在する。とりわけ町の南部からは不便な状態であるので、南部からはかなり距離的に近く、交通の便もよい継立に、中心市街地まで行かなくともある程度社会教育活動のうえで用の足りる公民館施設が望まれたのである。その2は、夕張鉄道沿線の市街地地域を含む継立、日の出部落には公民館がなく、活動上の空白地域となっているため^(注4)、それをうめようとしたものである。

施設は新築された。資金は地元からの寄附と簡易保険からの借入金（町費で返済）であった。この建物の一部に役場の支所を置き、役場の支所長が館長を兼ね公民館の管理運営にあたっている。したがって、ここでは単な

る貸館業務ではなく指導助言の態勢もある程度をとっている。この館の運営委員会はまだ正式にはおかれていない。しかし利用者代表の連絡会的なものがあり、それが実質的な運営委員会の役割をはたしている。

一方、中部公民館は、栗山から約4kmという近距離にあるかつて役場のあった市街地に設置されており、角田部落とそれに隣接する6部落を対象地域とし、南部公民館の対象地域と比較してずっと狭い。南部公民館が地元の高い要望の結果設置されたのに対し、中部公民館は、近くに他の地区館や分館があるため、住民からの要望は少なく、むしろ教育委員会が南部公民館発足に際して、市街地間のつりあい上もうけたといつてよい性格のものである。施設は旧役場の庁舎の一部を利用し、近くにある養老院の院長を公民館長に依頼しているが、管理するのが精いっぱい、運営面までは手がまわりかねる状態である。したがって貸館としての役割以外は目下のところはたせず、運営委員会に相当するものもいまのところ全くない。

市街地中心の地区館はやっと一昨年発足したばかりであるが^(注5)上記2館の他に、将来第4の市街地である日の出に東部館（仮称）をもうけ、新築される中央公民館とともに、各市街地とその勢力下の部落を対象と地域とする公民館活動の新しい拠点にしようと、教育委員会では考えている。これらの地区館は今後の施設設備、人員の充実がまたれるのである。

この町にある地区館の今一種類のものは、各小学校におかれ、小学校下を対象地域とする地区館（以下小学校単位の地区館と称する）である。現在栗山町には小学校が11校あるが、中心市街地区にある1校を除く10校を地区館に指定している。中心市街地にある小学校の校下は、形式的に中央公民館がその地区の地区館としてカバーすることになっている。

小学校が地区館に指定され、公民館活動を行なうようになってから約10年をへている^(注6)。はじめは分館であったが昭和36年頃からは、各部落単位におかれている分館を掌握し、分館からのいろいろな相談にのる上部機能的な役割をもつ地区館として位置づけられてきた^(注7)。つまり中央公民館（教育委員会）と分館を結ぶ中継点で

注4） この町の公民館の地域的分布については、公民館活動への地理的接近に関する一試論…高倉嗣昌…北海道大学教育学部紀要12号…図5—2、図5—3、P164—5を参照されたい。

注5） 昭和41年10月条例によつて発足、南部公民館の開設は昭和42年1月である。

注6） 昭和33年から小学校の分館指定を行なつた。このことが昭和39年社会教育モデル町村になるきつかけになつた。

注7） ここでいう公民館の上下関係は、普通官庁その他にみられる上下関係とは全く異なつた意味であり、個々の公民館の独自性をおさなことを大前提とする。

あった。

小学校区を対象とする地区館の館長は各小学校の校長に、公民館主事は教頭に、町から正式に依頼されている。各館ごとに運営委員会があり、校下にある分館の代表の他に、PTA、婦人、青年、成人の各代表が構成員になっている。教育委員会は、公民館活動奨励交付金を各地区分館に対して支出しているが、小学校単位の地区館には1館あたり年間5,000円の運営補助金と、活動が活発なもの1館をモデル館に指定して10,000円の奨励金をだしている。ただ各館の活動はかなり活発、不活発の差があり、一律に5,000円補助に対しては実情にあわないから実績に応じてそのつど支出する方法に改めることが検討されている。そして小学校下より広い地域を対象とする市街地中心の地区館との関係も、まだ明確には位置づけられておらず、この点も検討されなくてはならない。

この地区館の対象地域を更に細分化した地域に分館がある。分館は部落単位のもの、更に小地域を対象とする農事組合単位の分館がある^{注8)}。これは昭和36年から、町内数十カ所にあった集会所を、部落単位のものであると、農事組合単位のものであるとを問わず、地域住民の教育委員会に対する公民館指定の申請にしたがって、公民館分館に指定してきた。昭和36年には18カ所だったが、40年には39カ所、そして42年には45カ所と増加してきた。中には部落全体で一つに分館をもち、その部落の各農事組合がそれぞれ又一つ分館をもっているといった例もあるが、分館の段階では単なる対象地域の相違によるちがいで、上部機構、下部機構といった関係は全くない。

分館長は、住民の推薦にしたがって教育委員会が依頼し、それぞれに運営委員会がおかれている。構成員は、部落会、婦人会、青年団、PTAの各代表であり、青少年育成会や農事クラブ、4Hクラブがあればその代表も加えられる。公民館活動奨励交付金は各分館に対しても支出される。1館あたり年間3,000円の運営費補助と、特に活動の活発な分館を2館だけモデル分館に指定し、年間各10,000円の奨励金がそれである。他に公民館整備事業助成金がある。これは分館の施設、設備の拡充、整備に対して年間1館当り10万円を限度として助成されるもので、昭和39年からつけられている。年間総額30~40万円で、年平均10館がこの種の助成をうけており、分館の施設設備は最近かなり改良されてきている。つまり分館の場合、補助、奨励、助成の3本立になっている^{注9)}。

地区館、分館は毎年度頭初、一年間の活動計画をたて

表1-4 共和分館の昭和43年度活動計画

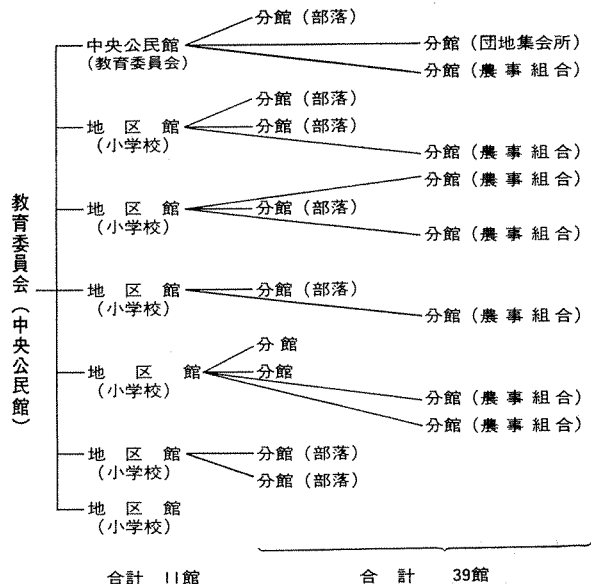
料理講習会	6回
敬老会	2回
衛生講習会	2回
社会学習会	2回
体育祭	1回
営農懇談会	2回
七夕祭り(子供)	1回
子供楽しみ会	1回
農事クラブ研究会	1回
営農・生活改善講習会	20回
総会	4回
奉仕活動(分館の清掃等)	1回
役員会	6回
新年会(部落、若妻、青年)	3回

て教育委員会に提出することになっている。分館活動計画の一例を表1-4にかかげる。

このような、個々の館の活動のほかに町全体の公民館関係者の会合が四つありのべ年6回開かれる。分館長・運営委員研修会、分館長・運営委員連絡会議、地区公民館長・主事連絡会議、分館活動実績発表会がそれである。

以上のように、この町では公民館を住民の身近なものにするために、出来る限り多くの施設、集会所を公民

図1-3 各公民館関連図I (昭和40年当時)



注8) 他に団地集会所におかれた分館もある。

注9) 地区館に対する援助も分館に対する援助も昭和39年から実施された。このために教育委員会が組む予算は、年間50~60万円程度である。

図1-4 各公民館関連図Ⅱ（現在）

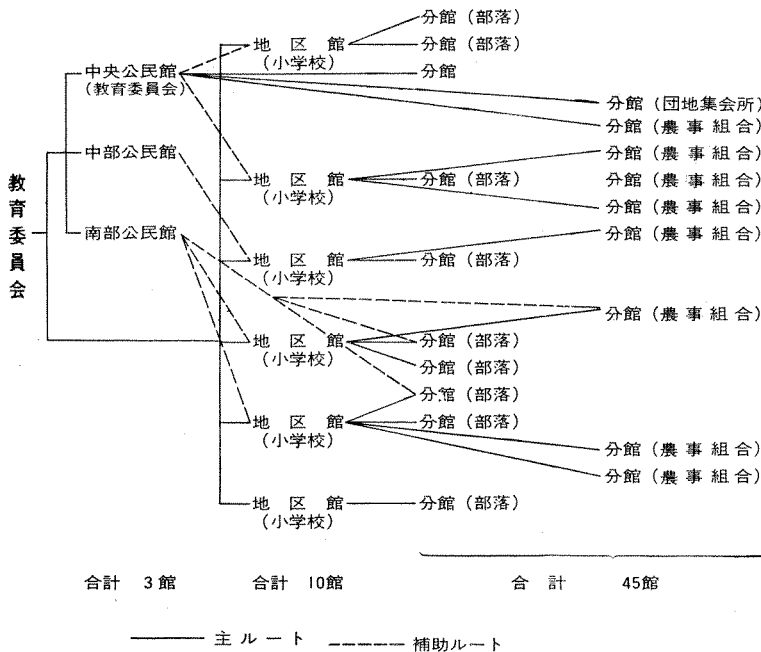
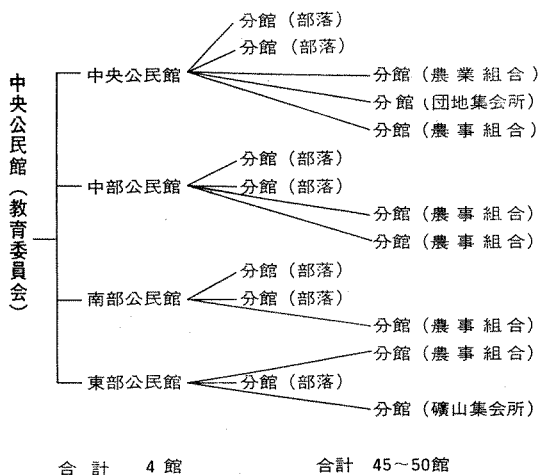


図1-5 各公民館関連図Ⅲ（未来姿）



館に指定していこうとする立場を明瞭にうかがい知ることができる。そして、単に看板をあげるだけでなく、公民館関係者には依頼の辞令を出し、わずかではあるが奨励のための支出をすべての館に行なうことによって、公民館活動の関心を高め、その浸透を深め、活発化して行こうとする努力もはらわれている。

こうした結果として、公民館を数多くかかえることになり、各館同志の関連等は複雑にならざるをえない。そこで、この町の教育委員会が、かくあるべしと考えてい

る公民館相互の連関を示す図を、過去、現在、未来の3時点に分けて作成してみた。

図1-3は昭和40年当時のもので、南部、中部公民館はまだ設置されておらず、教育委員会が各小学校の地区館を掌握し、その各地区館はその校下の分館を掌握するという態勢が形式的な面ではかなりすっきりした型でととのえられている。

それに対し、現在の状態は地区館が2段がまえになっているので、非常に複雑になっている。しかし、各市街地を中心におかれた地区館はまだ未整備で、小学校単位の地区館や分館を掌握する機関であると考えられてはいない。あくまでも教育委員会と分館をむすぶ補助ルートでしかなく、結局、教育委員

会—小学校単位の地区館—分館という昭和40年当時の態勢が目下のところ主力にならざるをえないと考えているようである。（図1-4）

それでは将来どうするつもりなのか。表1-5に示した。中央公民館は建設され、名実ともに全町を掌握する公民館となる。そして各市街地に新しくおかれた公民館を整備して、各小学校単位の地区館はなくしてしまおうと考えている。つまり、地区館を社会教育専門施設にきりかえて行こうとするのである。現在の姿はその第一歩をふみだしたもので、過渡期の一つの混乱した時期といえよう。

はたして、昭和40年の姿から、未来の姿への転換がなしうるのだろうか。本調査の一つの課題はそこに存在する。

ところで、農事組合単位の集会所までを公民館に指定し、その各々で住民の力による公民館活動をやっていこうというこの徹底した考えのそもそのおこりは、住民の自覚によってできたものというよりも、教育委員会関係者の一種のアイディアとしてできた側面が強く、いわば上から力でなされたものである。こうした点で本来の自治公民館^{注10）}とは一線を劃すると考えられる

注10）自治公民館とは従来、区または自治会とよばれていた部落会、町内会と部落館とを一体化したものの名称である。一現代の公民館—宇佐川満編—P80…昭和39年…生活科学調査会…

(注11)。こうした上からの力による公民館の編成を住民はどのように評価しているのであろうか。これが二つ目の課題といえる。

そして、公民館をより身近かなものとするこの作戦の結果、住民の公民館意識はどのような水準にあるのであろうか。これが本調査の三つ目の課題である。

第2章 調査方法と回答者の属性

1 調査対象と調査方法

調査対象は中心市街地外に住む人々とした。なぜ中心市街地外の人々を対象としたかはいろいろな理由があるが(注12)、この町がいわゆる中央館方式(注13)をとらずにかなり徹底した分館方式をとっており、そうした方式の住民に対する効果をみる場合、中心市街地外の人々がなにをにおいてもまず対象とされなくてはならないからである。

そして、分館の分布が市街地よりは農村部に多くもうけられている関係上、農村地帯に住む人々が主な対象となってくるのである。

本調査もあらかじめこのことを予想し、農民の回答が主になることを想定して調査票を作成した。調査票は巻末に示したようにフェースシートの他に27の質問からなり、1各公民館の利用頻度と目的、2地区館、分館に対する評価、3公民館活動に対する意識、4学習と公民館活動、5農民としての意識の五つの柱に分けることができる。

このような内容の調査票を、農閑期に各部落でしばしばもたれる部落の人々の集会の機会をとらえて、調査関係者(教育委員会社会教育関係職員)が実際に出席して、各人にくばり、1問1問説明しながら回答をしてもらう方法をとった。調査は昭和43年1月中旬から3月下旬にかけて行なわれた。

実際には、部落の人々の多くが集まる機会や時間かなり制約があり、合計8回調査の機会を得るにとどまった。そうした数少ない機会も、青年、婦人、成人といった対象別の集会の機会が多く、一部落からあらゆる層の回答を得ることができなかった。

調査がなされた部落名と集会名、その際の回答状況を表2-1に示した。最後の栗山青年団体協議会研修会は町役場で行なわれたものである。全部で241票の回答を得たが、分析にたえる回答数(有効回答数)は226票で

表2-1 調査の際の集会名と回答数

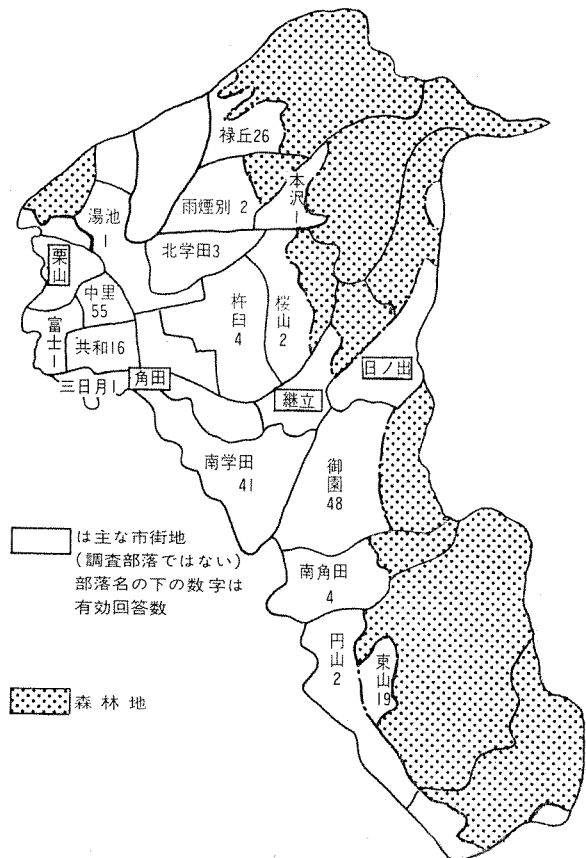
集 会 名	回 答 数	有効回答数
1 東山婦人学級	19人	19人
2 御園地区交通安全集会	45人	39人
3 緑丘小学校PTA	24人	24人
4 共和若妻会	15人	15人
5 御園第4婦人部修養講座	9人	9人
6 中里公民館講演会	55人	52人
7 南学田部落交通安全講習会	44人	38人
8 栗山青年団体協議会研究会(全町)	30人	30人
合 計	241人	226人

番号は調査順序

あった。以下の分析の標準となるのはこの226票である。

調査によってできたいろいろの結果のうち、本稿では先述の5本の柱のうち農民としての意識調査を除く四

図2-1 部落別有効回答数



注11) 自治公民館の定義をみると、栗山の分館も自治公民館に近いもののように感ずるが、前掲書でみられる鳥取県倉吉市の例と比較すると、部落会から自治公民館への転換が、倉吉市では、1町的に全市的な規模で、部落内組織の改組等も含めて行なわれている点、住民自身がそうした転換や改組に際して非常にはたらいでいる点が異なる。

注12) 公民館活動への地理的接近に関する一試論 … 前掲 … P 138 参照

注13) 同上 … P166

住民の公民館利用とその意識

つ（各公民館の利用頻度と目的、地区館・分館に対する評価、公民館活動に対する意識、学習と公民館活動）について述べることにする。

2 回答者の属性

(1) 部落別回答者数

226票の回答を部落別に分けて地図で表わしたのが、図2-1である。全部で16部落にちらばっているが、中里、御園、南学田、禄丘、東山、共和の6部落が10人以上の回答者がいる。これらの部落には前述のように実際に出かけて行って調査したものである。杵臼、南角田をはじめとする4人以下の回答者しかいない部落は、栗山で行なわれた青年の研修会の際の回答者で、すべて青年層である。

実際に調査担当者がでかけていって調査した6部落中畑作が非常に有力なのは東山、どちらかといえば畑作が有力なのは禄丘、どちらかといえば水田が有力なのは御園、残る3部落は完全な水田単作地帯といってよい。残る部落もすべて水田がかなり有力な部落ばかりである。したがって、水田地帯に回答者がややかたよったきらいがある。

(2) 農家の経営耕地、粗収入

分析対象216人中、7人は、教員その他の公務員、商店などの非農家である。したがって残る119人が農家の人である（表2-2）。

表2-2 農家非農家別回答者数（人数）

	男	女	計
農 家	114	105	119
非 農 家	1	6	7

表2-3 経営耕地からみた農家種類

	男	女	計
農 家	114	105	119
田 が 主	87	45	130
畑 が 主	22	22	44
無 記	5	40	46

この119人の家の経営耕地をみると、表2-3に示すように、田が主な農家が圧倒的に多い。自分の家の経営耕地面積をはっきり回答できなかった人が45人に達するが、このうち10人程度は住んでいる部落の位置から判断して、畑が主なのではないかと推定される。したがって畑が主な農家の人はおよそ4分の1ぐらいと考えてよいであろう。

農家の粗収入も、あいまいな回答が20%を占めるが、

わかった限りでは年間100～250万円程度の水準のものが55%、250～350万円のものが20%で、100万円以下のものは約10%にすぎず、残る15%程度は350万円以上の農家である。

(3) 男女別、年齢別、未既婚別回答者数

226人を男女別、年齢別にみると、表2-4のようになる。男性は115人、女性は111人で、ほぼ半々である。年齢別をみると、15～24歳までの青年層の回答が少なく（約18%）、30～44歳の年層の回答が多い（約50%）。つまり、全体を一つにしてみる場合、農家の経済者クラスとその主婦の考えが最も有力にでてくることになる。

表2-4 男女別、年齢別回答者数

年 齢	回答人数	率 (%)	男 性	率 (%)	女 性	率 (%)
15～19	13	5.8	3	2.6	10	9.0
20～24	27	11.9	14	12.2	13	11.7
25～29	17	7.5	9	7.8	8	7.2
30～34	31	13.7	15	13.0	16	14.4
35～39	47	20.8	18	15.7	29	25.1
40～44	32	14.2	19	16.5	13	11.7
45～49	22	9.7	13	11.3	9	8.1
50～54	16	7.1	11	9.6	5	4.5
55～59	13	5.8	9	7.8	4	3.6
60～	8	3.5	4	3.5	4	3.6
計	226	100.0	115	100.0	111	100.0

表2-5 未既婚別回答者数

	男	女	計
未 婚	15	22	37
既 婚	100	89	189

現に表2-5でもわかるように、既婚者が216人中189人で、未婚の者は37人にすぎない。この37人中36人は24歳以下である。

(4) 最終学歴

彼等の最終学歴をみると（表2-6）、小卒、高小卒が約半数、それに新中卒を加えると約70%になる。旧中、新高卒も20%以上いるが、新高卒が圧倒的に多い。男性では高小卒が群をぬいて多い。つづいて定時制全日

表2-6 最終学歴

	男 性	率 (%)	女 性	率 (%)	計	率 (%)
旧 小 卒	11	9.6	31	27.9	42	18.6
旧 高 小 卒	45	39.1	25	22.5	70	31.0
新 中 卒	19	16.5	26	23.4	45	19.9
旧 中 卒	12	10.4	2	1.8	14	6.2
新高卒(定時)	16	13.9	6	5.4	22	9.7
新高卒(全日)	5	4.3	10	9.0	15	6.6
旧 専 卒	1	0.9	—	—	1	0.4
無 記	6	5.2	11	9.9	17	7.5
計	115	100.0	111	100.0	226	100.0

制をあわせた高卒者が多く、新中卒をしのいでいる。女性、旧小、新中、高小の順であるが、いずれも20%台である。女性の方に低学歴の者が圧倒的に多い中において、高卒の女性の比率が男性の比率とさして差がない点が指摘できる。

(5) 分析の指標

以上が、回答者の主な属性であるが、以下の章では、主に次の指標に従って分析していく。すなわち、社会教育上の対象にあわせて、青年、成人、婦人の三つに分けて、相互比較を行なうことである^(注14)。この場合、社会教育の対象とは完全に一致しないが、青年を未婚既婚を問わず15～24歳までの年齢の男女とし^(注15)（以下も同じ）、成人は未婚既婚を問わず25歳以上の男性^(注15)、婦人は同じく25歳以上の女性（以下も同じ）として区分する。青年、成人、婦人それぞれの人数は表2-7に示した。

表2-7 青年、成人、婦人の人数

	男	女	計
青 年	17	23	40
(15～24歳男女)	—	—	17.7
成 人	98	—	98
(25歳以上男性)	—	—	43.4
婦 人	—	88	88
(25歳以上女性)	—	—	38.9
計	115	111	226
率	—	—	100.0

第3章 各公民館の利用状態

1 中央館・地区館の利用状態

(1) 中央公民館の利用状態

質問項目は以下のようである。

1 あなたは中央公民館をこの1年間に何回ぐらいの割合で利用なさいましたか

- イ) 1回もない
- ロ) 年1～2回程度
- ハ) 年3～4回程度
- ニ) 2カ月に1回程度
- ホ) 月1回程度
- ヘ) 2週間に1回程度
- ト) 週に1回程度
- チ) 週1回以上

厳密な回数よりも、どのくらい回答者が身近かなものとして考えているかという点を見ることに主眼がある。

結果は表3-1に示すように、全体の半数はこの1年

表3-1 中央公民館をこの1年間に何回ぐらい利用したか

	全 体		青 年		成 人	婦 人
	実 数	%	%	%	%	%
イ 1回もない	112	49.6	30.0	36.7	72.7	
ロ 年1～2回程度	64	28.3	22.5	43.9	13.6	
ハ 年3～4回程度	21	9.3	17.5	9.2	5.7	
ニ 2カ月に1回程度	8	3.5	17.5	—	1.1	
ホ 月1回以上	13	5.8	12.5	8.2	—	
無 記	8	3.5	—	2.0	6.8	
計	226	100.0	100.0	100.0	100.0	

間に1回も利用したことがなく、全く縁遠い存在である。対象別にみると、青年、成人で利用していない者は30%台で比較的少ないが、婦人の70%が1回も利用していない点が特に目立つ。

全体ではそれでも半数近くがこの1年間に何回か利用しているが、年1～2回程度という者が全体で28%を占め、年3～4回かそれ以上利用したとする者は18%であった。利用した者が多かった青年、成人を比較すると、成人は年1～2回程度の者が圧倒的に多いのに対し、青年は年3～4回がそれ以上利用したとする者が最も多い。

しかし中心市街地外の人々を対象としたこの調査で、月1回以上利用する者が6%近くを占めるが、こうしたことはその実態からいってちょっと考えられない。ここでは教育委員会と中央公民館が現在離れており別のものであるということを充分認識しておらず、教育委員会に出かけたことで、中央公民館を利用したものと考えてしまっている人々が案外いるのではないかと察せられる。

中央公民館は、既に述べたように形式的に三つの役割がある。第1は町全体の中央公民館としての役割、第2に、市街地中心の地区館である中部・南部公民館の対象地域以外の地域のための地区館（町の北部を対象）、第3は、各小学校区にわかれていた地区館と同じレベルの地区館で、栗山小学校（地区館に指定されていない）の校下を対象としたものの三つである。

利用状態からみてどの役割が一番近いかをみるためにいろいろ分析をしてみたが、栗山の中心市街地の人々の集会所的役割以外は、あまり明確にでて来ない。たとえば地区館としての対象地域の人々の利用と対象地域外の人々の利用の間にも差はほとんどなく、又中央公民館から近い中心市街地外の人々が特によく利用しているという事実もみられない。

注14) 以下この指標による分析を対象別分析と称する。

注15) 15～24歳の年齢層に既婚男性3、女性1を含む。25歳以上の男性に未婚1がある。

住民の公民館利用とその意識

(2) 南部公民館の利用状態

最近建設された南部公民館について一連の質問を行なった。

2 あなたは継立市街に最近「南部公民館」が建設されたのを御存じですか

イ) 知っている

ロ) 知らない

2-SQ (知っている方に) それを実際に利用なさったことがありますか

イ) ある

ロ) ない

2-SQ (利用したことのある方に) それはどのくらいの割合で利用なさいましたか

イ) 年1～2回程度

ロ) 年3～4回程度

ハ) 2カ月に1回程度

ニ) 月1回程度

ホ) 2週間に1回程度

ヘ) 週に1回程度

ト) 週1回以上

南部公民館の設立は、既に述べたように、住民の強い要望と資金調達によってなされた面が強く、全町的に一時相当話題になったという。どのくらいの人々が南部公民館の存在を知っているのでしょうか。

表3-2 南部公民館を知っているか

	全 体		青 年	成 人	婦 人
	実 数	%	%	%	%
対象地域内					
知 っ て い る	87	76.3	86.7	85.5	56.2
知 ら な い	25	21.9	13.3	14.5	37.8
無 記	2	1.8	—	—	5.4
計	114	100.0	100.0	100.0	100.0
対象地域外					
知 っ て い る	25	22.3	44.0	33.3	3.9
知 ら な い	82	73.2	56.0	58.3	92.2
無 記	5	4.5	—	8.3	3.9
計	112	100.0	100.0	100.0	100.0

表3-2に、対象地域(町東南部全域)とその他の地域の人々に分けて示した。対象地域内の114人中25人(21.9%)はその存在を知らなかった。知らない者は特に婦人層に多いが、青年、成人を含めて知らないと答えている者は、継立市街から最も遠い東山部落の人々が多い傾向がみられる。一方対象地域外の人々をみると、直接関係のない故か知らない人々が非常に多く、73%に達している。青年、成人はそれでも知っている者が30～40%いるに対し、婦人はわずか4%がその存在を知っていたにすぎない。つまり、南部公民館は話題になった割に

表3-3 南部公民館をこの1年間に何回ぐらい利用したか

	全 体		青 年	成 人	婦 人
	実 数	%	%	%	%
知っている者合計	112	100.0	100.0	100.0	100.0
利用したことがない	52	46.4	70.8	41.5	56.5
年1～2回程度	59	34.8	16.7	41.5	34.8
年3～4回程度	7	6.3	8.3	6.2	4.3
2カ月に1回程度	1	0.9	—	—	4.3
月1回	1	0.9	—	1.5	—
2週間に1回以上	1	0.9	—	—	4.3
無 記	11	9.8	4.2	9.2	17.4

注 質問中の2つの subquestion を1つにまとめて示した。

はあまり知られていないという結果である。

対象地域内でその存在を知っていた者の利用状態をみよう。表3-3である。知っていた者121人中半数近い52人は1回も利用したことがない。対象別にみると、知っている率が85%をこえていた青年と成人の間で差がみられ、利用したことのない者が成人は40%なのに青年は70%をこえている。年1～2回程度利用した者は39人(34.8%)である。対象別では成人に多く青年に少ない。年3～4回程度かそれ以上利用した者の比率は婦人が最も高い。

(3) 中部公民館の利用状態

中部公民館に関する質問項目は次のとおりである。

3 あなたは角田市街に「中部公民館」があることを御存じですか

イ) 知っている

ロ) 知らない

3-SQ (知っている方に) それはこの1年間に何回ぐらいの割合で利用なさいましたか

イ) 1回もない

ロ) 年1～2回程度

ハ) 年3～4回程度

ニ) 2カ月に1回程度

ホ) 月1回程度

ヘ) 2週間に1回程度

ト) 週に1回程度

チ) 週1回以上

南部公民館と異なって、旧役場の建物があった故に、いわば便宜的にもうけられたのが中部公民館であるが、それがどのくらい知られ、利用されているのであろうか。

対象地域(角田市街周辺6部落)内と地域外にわけて、その存在を知っている者についてみたのが表3-4である。対象地域内からの回答者は21人にすぎないが、約4分の1の5人はその存在を知らなかった。一方、対

表3-4 中部公民館を知っているか

	全 体		青 年	成 人	婦 人
	実 数	%	%	%	%
対象地域内					
知 っ て い る	16	76.2	57.1	100.0	66.7
知 ら な い	5	23.8	42.9	—	33.3
無 記	—	—	—	—	—
計	21	100.0	100.0	100.0	100.0
対象地域外					
知 っ て い る	57	27.8	42.4	42.2	6.1
知 ら な い	158	67.3	57.6	54.4	85.4
無 記	10	4.9	—	3.3	8.5
計	205	100.0	100.0	100.0	100.0

表3-5 中部公民館のこの1年間にどのくらい利用したか

	全 体		青 年	成 人	婦 人
	実 数	%	%	%	%
知っている者合計	73	100.0	100.0	100.0	100.0
利用したことがない	43	58.9	61.1	58.7	55.6
年1～2回程度	17	23.3	22.2	19.6	44.4
年3～4回程度	3	4.1	5.6	4.3	—
2カ月に1回以上	—	—	—	—	—
無 記	10	13.7	11.1	17.4	—

対象地域外の人々は、28%が知っており、南部公民館よりもむしろ知っていた者が多かった。しかし婦人層はここでも知らなかった者が多く85%を占める。

その利用状態を表3-5にまとめた。知っている者73人中利用したことがある者が20人いる。対象地域内で存在を知っていた16人中15人は利用したことがある。この他に、対象地域外だが近隣である故に利用する機会があった者も数名いる。

中部公民館は、結局南部公民館と比較して存在を知られている度合も、利用度も決して低くはないが、利用回数を見るとやや低いということがいえる。対象地域が比較的狭いことが一つの有利の材料になっているようである。

(4) 小学校区単位の地区館の利用状態

小学校区単位の地区館についての質問項目は次のとおりである。

4 あなたはあなたが住んでいる地域を学校区とする小学校に公民館（地区館）がおかれていることを御存じですか

- イ) 知っている
- ロ) 知らない

4-SQ (知っている方に) それをこの1年間にどのくらいの割合で利用なさいましたか

- イ) 1回もない
- ロ) 年1～2回程度

- ハ) 年3～4回程度
- ニ) 2カ月に1回程度
- ホ) 月1回程度
- ヘ) 2週間に1回程度
- ト) 週1回程度
- チ) 週1回以上

町内小学校中東山小学校を除く中心市街地外の10校は、公民館として住民に開放されている。したがって、町内いかなる地域に住んでいる人も、地区館活動には参加できることになる。しかし栗山小学校下の中里をはじめとする数部落は小学校が開放されておらずやや特殊な立場にある。このような人が、回答者の中に57人いる。

表3-6 小学校単位の地区公民館を知っているか

	全 体		青 年	成 人	婦 人
	実 数	%	%	%	%
小学校に地区館のある地域に住む人	169	100.0	100.0	100.0	100.0
知 っ て い る	137	81.1	93.8	89.5	65.6
知 ら な い	15	8.9	6.3	5.5	14.1
無 記	17	10.1	—	5.5	20.3

表3-7 小学校単位の地区公民館をこの1年間にどのくらい利用したか

	全 体		青 年	成 年	婦 人
	実 数	%	%	%	%
知っている者合計	137	100.0	100.0	100.0	100.0
イ 1回ない	27	19.7	13.3	11.4	9.5
ロ 年1～2回程度	32	23.4	23.3	11.4	9.5
ハ 年3～4回程度	30	21.9	10.0	40.9	42.9
ニ 2カ月に1回	6	4.4	—	9.1	9.5
ホ 月1回	17	12.4	26.7	15.9	16.7
ヘ 2週間に1回	8	5.8	23.3	—	—
無 記	17	12.4	3.3	11.4	11.9

この57人を除く169人について、小学校単位の公民館の存在を知っているか否かをみると、表3-6のように、全体の81%が知っているに答えている。青年、成人は90%内外が知っているのに対し、婦人は66%にすぎない。

結局137人が知っていたことになるが、その利用状態をみると表3-7に示すようになる。1回もないと答えているものは全体の20%にすぎず、利用率は今までみてきた中央館や地区館とは比較ならぬほど高い。そして、年1～2回程度利用している者が23%なのに対し、年3～4回利用する者が22%もあり、利用回数も多い。青年の半数は月1回以上利用しているし、成人、婦人の3人に2人は少なくとも年3～4回程度利用している。小学校単位の地区館は住民にとって相当身近な存在であ

住民の公民館利用とその意識

る。この地区館の評価については次章で述べる。

2 分館の利用度と利用目的

(1) 分館の利用状態

まず分館の利用状態をみた。質問項目を以下に示す。

- 5 あなたの属する部落又は農事組合にある公民館（分館）をこの1年間に何回ぐらいの割合で利用なさいましたか(注16)

- イ) 1回もない
- ロ) 年1～2回程度
- ハ) 年3～4回程度
- ニ) 2カ月に1回程度
- ホ) 月1回程度
- ヘ) 2週間に1回程度
- ト) 週1回程度
- チ) 週2回程度
- リ) ほとんど毎日

結果を表3-8にまとめた。この1年間に分館を1回も利用したことがないというのはわずか1.3%にすぎない。又年1～2回程度しか利用しなかった者も2.2%にすぎず、住民にとって非常によく利用されていることがわかる。

全体では、月1回程度利用する者が最も多く、次いで2週間に1回程度の者、2カ月に1回程度の者、年3～4回の者となつづく。又週1回以上という者も10%近くい

- 5-SQ (この1年間に1回でも分館を利用した方に) あなたは分館をどんな用件で利用なさいましたか
(利用した用件に○印をつけたうえ、かよった回数の多い順に番号をつけて下さい。番号をうつのは5番目ぐらいまでで結構です)

利用した目的	部落会 農事組合		P T A 育成会		農 協 役 場		公民館分館 教育委員会		団 体 サークル	
	○印	番号	○印	番号	○印	番号	○印	番号	○印	番号
イ) 学習 講座(青年 婦人 家庭教育 社会 保健など)										
ロ) 研修会(社会関係 視察旅行など) 講習(農業料理など)										
ハ) 講演会 映画会										
ニ) 研究会(農事, 肥料など) 発表会(農業実績など) 読書会										
ホ) 懇談会 座談会 説明会										
ヘ) 親睦会(新年会, 忘年会など) 交流会(成人式, 敬老会など)										
ト) 保健, 体育, レクリエーション(祭典など)										
チ) 役員会										
リ) 総会, その他会合										

すなわち、用件のできた先を大きく五つに分け、その集会の目的を9とおりに大別して、このくみあわせによる45とおりの回答肢の中から各自が参加したすべての項目に○印をつけてもらった。

まずその目的は別として、どこの用件で分館を利用し

表3-8 分館をこの1年間でどのくらい利用したか

	全 体		青 年	成 人	婦 人
	実 数	%	%	%	%
イ 1回もない	3	1.3	—	2.0	1.1
ロ 年1～2回程度	5	2.2	—	—	5.7
ハ 年3～4回程度	32	14.2	2.5	4.1	30.7
ニ 2カ月に1回程度	35	15.5	2.5	10.2	27.3
ホ 月1回程度	68	30.1	37.5	36.7	19.3
ヘ 2週間に1回程度	44	19.5	22.5	25.5	11.4
ト 週1回程度	16	7.1	20.0	8.2	—
チ 週2回程度	5	2.2	5.0	3.1	—
リ 毎 日	1	0.4	—	3.1	—
無 記	17	7.5	10.0	9.2	4.5
計	226	100.0	100.0	100.0	100.0

る。対象別にみると、青年に利用回数の多い者が最も多く、成人がわずかの差でそれに次いでいる。婦人層は年3～4回という者が最も多く、利用回数は前2者に比較して少ない者が多い。

分館はすべての層にとって身近なもので、かなり頻繁に利用されている。小学校単位の地区館は利用回数や利用する層にささかむらがあったのとは大きなちがいである。

(2) 分館の利用目的

分館は、青年にも成人にも婦人にもかなりの頻度で利用されているが、どこの用事で、それがどのような目的の集まりであったのかを調べてみた。質問項目は下に示すように、かなり複雑なものである。

たかをみよう。回答があったのは209人で、のべ498の用件があった。用件別にみると、最大五つの用件中1人当たり約2.4の用件があったことになる。226人を100.0%と

注16) 農事組合単位の分館、部落単位の分館両方とも利用でできる立場の者には、両方を利用した合計を答えてもらった。

図3-1 どこの用件で公民館を利用したか (M・A)

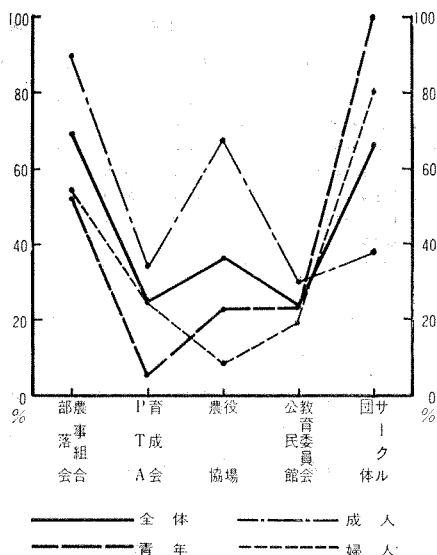
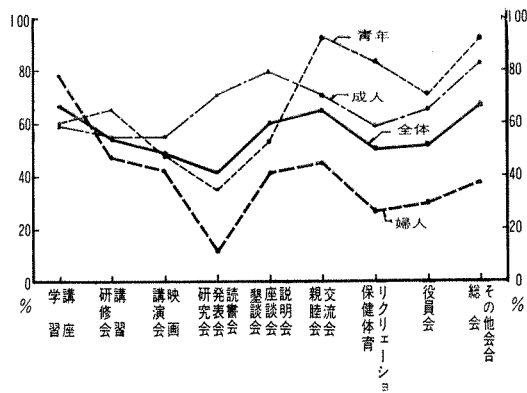


図3-2 どんな目的の集會に参加したか (M・A)



して、何%ぐらいの人々がどこの用件で分館を利用したのかをみたのが図3-1である。

これによると、全体では約70%の人が部落会（農事組合）の用件で、約50%が団体（サークル）の用件で分館を利用している。以下農協（役場）の用件（36%）、PTA（育成会）の用件（25%）、公民館（教育委員会）の用件（24%）となる。

対象別にみると、成人は部落会（農事組合）の用件と農協（役場）の用件が多い。青年・婦人は団体（サークル）が群をぬいて多く、部落会（農事組合）がそれに次ぐ。用件が特に少ないのは、青年のPTA（育成会）、婦人の農協（役場）、成人の団体（サークル）であり、分館を利用する用件にそれぞれ顕著な特徴がみられる。しかし、公民館（教育委員会）の用件は対象別の差が小

さい。

こんどはいかなる用件にせよどのような目的の集會に参加が多かったのかをみよう。

209人がのべ1,139の目的で分館を利用した。最大九つの目的中1人当たり5.4の目的の集まりに利用したことになる。前と同じく226人を100.0%として、どんな目的の集會に何%の人が参加したのかをまとめた。図3-2である。

全体では、総会その他会合が目的の者と、学習・講座が目的の者がそれぞれ67%、親睦会・交流会が目的の者が65%、懇談会・座談会・説明会等が60%と比較的多く、研究会・発表会・読書会が41%、講演会・映画会が49%と低い。しかし、最も参加者の多かった目的と少なかった目的の間には、さして大きな差はない。

対象別にみると、青年は、総会その他会合、親睦会・交流会、保健・体育・レクリエーションの目的で分館を利用する者が多く、単なる会合やレクリエーション面が目立つ。成人は、総会その他会合、懇談会・座談会・説明会が多く、研究会・発表会・講習会、親睦会・交流会がそれに次ぐ。うちあわせや親睦的な会合のほか、経営面に影響のある会合での利用が目立つ。婦人は、学習・講座が圧倒的に多い。成人は目的別の参加率が、多い方と少ない方の差はなく、すべての目的の集會に顔をだす傾向があるに対し、青年や婦人は目的別に利用の状態で大幅に異なり、研究会・発表会・読書会での利用は最も低い。特に婦人は極端である。

結局、質問項目の枠の中にうめられた○印の数は合計1,976であった。回答したのは209人であるから1人当たり平均7.5の○印をつけたことになる。この中のとりわけどの用件のどの目的の集まりで、公民館を利用したのであろうか。利用した回数の多い順に番号をうってもらった。

表3-9-1は最もよく利用したとする項目を男女別にまとめたものである。これによると、男性は部落会（農業組合）の用件で、役員会や総会その他会合の目的の集への参加が多く、女性は団体（サークル）の用件で、総会その他の会合や学習・講座に参加する者が多く、男女とも集中の傾向が著しい。他に男性では部落会（農業組合）の研究会・発表会が、女性では団体（サークル）の研修会・講習が目立つ程度である。

それでは二番目に利用の多い項目は何か。表3-9-2にまとめた。男性では部落（農事組合）の用件がここでも多いが、団体（サークル）の用件もかなり高い。女性も団体（サークル）の用件が最も多い点、前とかわりないが、PTAがそれに次いでかなりの比率を占めてい

住民の公民館利用とその意識

表 3-9-(イ) 用件別・目的別にみた利用第1位の項目の分布

	計	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ
		学 講 習 座	研 講 修 会 習	講 映 演 画 会	研 発 究 表 会	懇 座 談 談 明 会 会 会	親 交 睦 流 会	保 健 レ ク リ エ シ ョ ン 体 育	役 員 員 会	総 他 会 会 合
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
部 落, 農 事 組 合	53 8	3 5	— —	1 —	10 —	8 1	— —	— —	15 —	15 1
P T A, 育 成 会	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
農 協, 役 場	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
公 民 館, 教 育 委 員 会	1 1	— —	— 1	— —	1 —	— —	— —	— —	— —	— —
団 体, サ ー ク ル	20 56	1 18	— 11	— —	2 —	1 2	2 1	2 1	2 2	10 22
計	74 65	4 23	— 12	1 —	13 —	9 3	2 1	2 1	18 2	25 23

表 3-9-(ロ) 用件別・目的別にみた利用第2位の項目の分布

	計	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ
		学 講 習 座	研 講 修 会 習	講 映 演 画 会	研 発 究 表 会	懇 座 談 談 明 会 会 会	親 交 睦 流 会	保 健 レ ク リ エ シ ョ ン 体 育	役 員 員 会	総 他 会 会 合
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
部 落, 農 事 組 合	45 5	1 3	2 —	— —	6 1	12 —	2 —	1 1	6 —	15 —
P T A, 育 成 会	3 7	— 7	— —	— —	— —	2 —	— —	— —	— —	1 —
農 協, 役 場	4 1	— —	— —	— —	2 —	2 1	— —	— —	— —	— —
公 民 館, 教 育 委 員 会	1 1	1 —	— 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
団 体, サ ー ク ル	22 35	— 8	— 1	— 2	— —	5 4	4 3	3 11	5 3	5 3
計	75 49	2 18	2 2	— 2	8 1	21 5	6 3	4 12	11 3	21 3

る。男性の部落（農事組合）での用件を目的別にみると、総会その他会合の次に懇談会・座談会が多い点が目立つ。それに対し女性は、団体（サークル）の保健・体育・レクリエーションが最も多く、次いで学習・講座となる。そしてPTAの学習・講座も多い。

- ロ）教育委員会に相談にゆく
- ハ）地区公民館（小学校）に相談にゆく
- ニ）高校に相談にゆく
- ホ）計画をとりやめる
- ヘ）わからない
- ト）その他

その結果を表4-1にまとめた。回答したのは184人でのべ228の回答があった。内容をみると、教育委員会に相談にゆくとする者が約半数を占め、次いで農協に相談にゆく者が18%ある。そして地区館に相談にゆく者は

第4章 地区館・分館の評価

1 地区館（小学校区単位）の住民の評価

(1) 分館に対する指導助言機関としての地区館

小学校単位の地区館は、利用する層や利用頻度にかなり差がみられたが、地域住民にとってかなり身近かなものであった。一方教育委員会は、教育委員会だけで45もの分館を掌握するのは大変なため、小学校単位の地区館に、対象地域内の分館を掌握し、指導助言にあたる任務を負わせた。はたしてその意図が住民に通じているのであろうか。又、地区館はそうした役割をはたしているのであろうか。そのようなことの一端をみるために、次の質問項目を設定した。

12 もし部落や農事組合（分館）が独自で計画した講習会や講演会が部落だけの力ではできなくなった場合、あなたならどうしますか

イ）農協に相談にゆく

表 4-1 もし部落や農事組合（分館）が独自で計画した講習会、講演会が部落だけの力でできなくなったときどうするか (M・A)

	全 体	青 年	成 人	婦 人
無 記 回 答 あり	42	1	17	24
回 答 数	184	39	81	64
	228	45	103	84
	100.0	100.0	100.0	100.0
イ 農協に相談にゆく	25.4	17.8	26.2	23.8
ロ 教育委員会に相談にゆく	48.7	48.9	54.4	41.3
ハ 地区館(小学校)に相談にゆく	6.6	2.2	5.9	12.5
ニ 高校に相談にゆく	0.4	—	1.0	—
ホ とりやめる	1.3	4.9	1.0	—
ヘ わからない	15.4	20.0	11.7	17.5
ト その他	2.2	6.7	1.9	—

7%に満たなかった。つまり、住民は講習会や講演会の計画が手にあまると、近くにある地区館に相談にいかずに、教育委員会や農協に行ってしまうということである。対象別にみても、この傾向は顕著であり、わずかに婦人層に地区館に相談にいくとする者が1割程度いることが目立つ。

地区館は、分館に対する指導助言の役割をあまりはたしてはおらず、その点で少しも教育委員会の負担をかるくしてはいない。

(2) 地区館の役割

しかし実際地区館では公民館活動が行なわれ、住民もかなり利用している。一体住民は地区館をどのような役割のものとして評価しているのであろうか。

そこで次の質問を試みた。

13 あなたは地区館（小学校におかれている公民館）はなんのためにあると思いますか

イ) 校下の分館（部落、農事組合単位の公民館）を統括する

ロ) 校下の子供会、PTA活動の指導助言など、学校教育に近い分野の公民館活動を担当する

ハ) 分館をもたない部落（農事組合）住民が利用する

ニ) わからない

イ)、ロ)、ハ)の三つはいずれも地区館のもっている任務であるが、とりわけどの点が最も住民に評価されているかを、表4-2にまとめた。全体の半数近くが、校下の子供会やPTA等への指導助言等学校教育に近い分野の公民館活動を担当するものと考えている。そして分館の掌握や分館をもたない住民の利用する機関として考える者はそれぞれ13%程度にすぎない。この傾向は対象別にみてもそれぞれ全くかわりがない。

表4-2 地区館（小学校単位）のはたす役割

	全 体		青年	成人	婦人
	実数	%	%	%	%
イ 校下の分館の統括	30	17.3	17.5	12.2	12.5
ロ 校下の子供会、PTAの指導助言など学校教育に近い分野の公民館活動を担当	110	49.7	60.0	52.0	39.8
ハ 分館をもたない部落（農事組合）住民が利用する	29	12.8	7.5	17.3	10.2
ニ わからない	28	12.4	12.5	7.1	18.2
無 記	29	12.8	2.5	11.2	19.3
計	226	100.0	100.0	100.0	100.0

つまり、住民の考えている地区館は、より高所から分館と同じ問題でとらむのではなく、全く対等なものである。ただ活動の分野が異なっているにすぎないものである。小学校単位の地区館は学校教育との関連という

他にはできない社会教育活動の分野をになっていることになる。

2 分館に対する住民の評価

(1) 分館に指定されたことについての評価

まず、次の質問をした。

7 あなたは部落又は農事組合の会館が分館に指定されてよかったと思いますか

イ) よかったと思う

ロ) たいしてかわりない

ハ) 返ってわるかったと思う

ニ) わからない

表4-3 集会所が分館に指定されてよかったか

	全 体		青年	成人	婦人
	実数	%	%	%	%
イ よかった	152	67.3	57.5	66.3	72.7
ロ かわりない	23	10.2	2.5	13.3	10.2
ハ かえつてわるくなった	—	—	—	—	—
ニ わからない	26	11.5	27.5	6.1	10.2
無 記	25	11.1	12.5	14.3	6.8
計	226	100.0	100.0	100.0	100.0

結果を表4-3に示した。回答あった201人中26人はわからないといったが、実に152人（67.3%）がよかったと答え、たいしてかわらないと思う者が23人（10.2%）いるにすぎず、かえつてわるかったと思う者は1人もいない。つまり消極的な疑問がごく1部にみられるが、積極的な疑問は一つもでていない。対象別にみても同じであるが、消極的な疑問の比率が成人にやや多い。

(2) 指定されてよかったと思う点

8 分館が指定されてよかったと思う点が具体的にありますか

イ) ある

ロ) ない

8-SQ （ある方に）よかったと思はどんな点ですか（次の項目からえらんで○をつけ、うしろの（ ）内によかったと思う順に番号をふって下さい）

イ) 学習のために集まる機会がふえた

ロ) 指導助言が以前よりひんばんに来てくれるようになった

ハ) 部落会（農事組合）の運営のしかたが改善された

ニ) レクリエーションのやり方がたくなった

ホ) 他の部落（農事組合）との交流の機会がふえた

へ) 中央館や地区館も観念のうえで利用しやすくなった

ト) 施設設備が改善された

チ) 奨励金がくるので活動がさかんになった

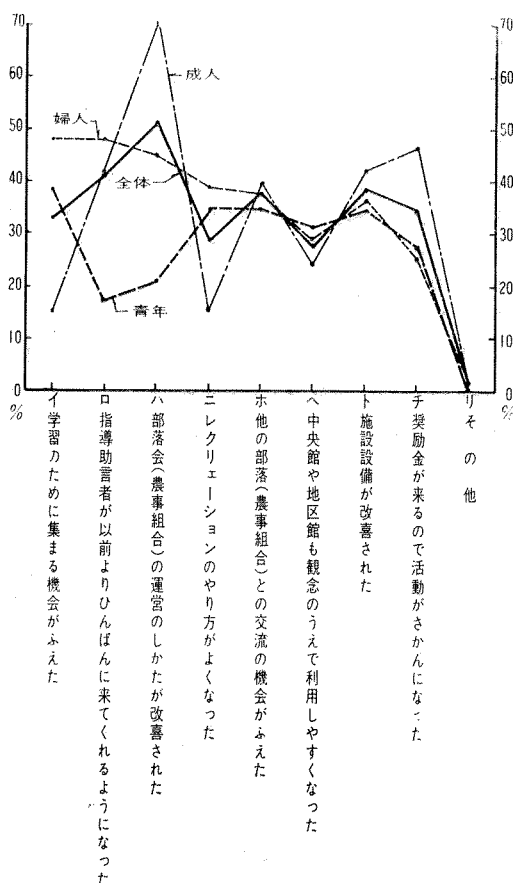
リ) その他(具体的に書いて下さい)

()

分館に指定されてよかったと思う点があるとする者は全体の74.3%の168人であり、ないとする者は15%の34人であった。ないとする者は青年、成人に多い(20~25%)。

どんな点がよかったかを次の段階で質問した。結果を図4-1に示した。全体では、部落会(農事組合)のしかたが改善された点をあげる者が50%をこえて最も多く、指導助言者が以前より頻繁に来てくれるようになった点をあげる者が41%、施設設備の改善、他の部落(農事組合)との交流の機会の増加をあげる者がそれぞれ38%でつづいている。奨励金の効果をあげる者も34%い

図4-1 分館に指定されてよかったと思う点



る。

しかし、対象別にみるとそれぞれかなり異なった傾向がみられる。青年は指導助言者が頻繁に来てくれるようになった点や、部落会(農事組合)のしかたがかわった点を特にあまり評価しないが、前者は成人が大きく評価し、後者も婦人が最も評価している。一方成人は、学習の機会がふえたこと、レクリエーションのやり方がかわったことなどはあまり高く評価しないのに対し、婦人はこの点を高く評価している。奨励金が来るので活動が活発になった点は、成人はおおいに評価するが、青年、婦人はそれほどでない。

ところで、部落会(農事組組)の運営のしかたが改善されたとする評価が高かったが、より具体的にはどのようなことなのか。この点について、社会教育主事の佐藤氏が数人の人に面接した結果次の点が指摘された。

- 1) 伝統的な部落会の名で会を招集していたときよりも、公民館活動の一環として公民館が招集するようになってから出席がずっとよくなった。
- 2) 部落会の名で招集していた頃は会の開始や終了がルーズであったが、公民館が招集するようになると、時間が厳守されるようになった。
- 3) 従来部落会館というと、農家の主人達が集まる場所であり、それらの人々が独占しているかたちであったが、公民館になってから、そうした雰囲気はなくなって、だれでも気軽に利用できるようになり、したがって部落会もいろいろな人の意見が出されるようになった。

つまり、公民館のもつ人間平等の精神、合理的な精神、何かを学ぼうとする精神などが分館を通じて住民の間に滲透してゆき、住民達にある種の自覚をうながしたのである。ここは単なる部落会館ではなく公民館なのだという観念が、住民を部落の改善の方向にかりたててゆく一つの要因になったといえよう。

(3) 指定されて却ってわるかったと思う点

分館の指定は住民にとってよいことばかりであったのであろうか。(2)とは逆の質問をしてみた。

9 分館に指定されて却ってわるかったと思う点が具体的にありますか

イ) ある

ロ) ない

9-SQ (ある方に) わるかったと思う点はどんな点ですか(次の項目からえらんで○印をつけ、うしろの()内にわるかったと思う順に番号をふって下さい)

イ) 学習の面が強くでてでて部落活動がかたくなる

- しくなった
- ロ) 部落(農事組合)活動によびだされる回数がふえた
- ハ) 町の発言がまして部落活動の自主性に影響を与えている
- ニ) 部落事務がはんざつになった
- ホ) 部落会館(農事組合)の間に差がでてきた
- ヘ) 地区間(小学校)との活動上の重複が目立つ

ト) その他(具体的に書いて下さい)

()

ところが、指定されて却ってわなかったと思う点があると答えたのはわずか12人(男性6, 女性6)にすぎなかった。

彼等は具体的にのべ16の回答をしたが、部落(農事組合)活動によびだされる回数が増えた点と、部落(農事組合)会館の間に差がでてきたことを指摘した者が各5人、学習の面が強くてきて部落活動がかたくなるようになった点と、地区館(小学校)との活動上の重複が目立つ点をあげた者が各3人いるにすぎなかった。

つまり、部落(農事組合)会館の公民館分館指定は住民の圧倒的な支持を受け、もはやなくてはならぬ存在になってしまった感が深い。

(4) 分館活動計画の認識度

しかし、分館で実際行なわれている活動を住民がどのくらい認識しているのでしょうか。この点について一連の質問をした。

10 あなたはあなたの属する部落(農事組合)の公民館分館が、毎年部落(農事組合)の人々と相談して自主的な活動計画をたてていることを御存じですか

イ) 知っている

ロ) 知らない

10-SQ (知っている方に)あなたは今年の分館の活動計画についてその一部分でも御存知ですか

イ) 知っている

ロ) 知らない

10-SQ (活動計画を少しでも知っている方に)その計画のなかで最もよくおぼえている活動の内容を具体的に書いて下さい

分館が住民と相談して自主的な活動計画をたてていることを知っているか否かを表4-4にまとめた。この結果全体の27%がそうしたことを知らなかった。知らなかった者は、青年、婦人に多かった。

表4-4 あなたの属する部落(農事組合)の公民館分館が毎年部落(農事組合)の人々と相談して自主的な活動計画をたてていることを知っているか

	全 体		青 年		成 人		婦 人
	実 数	%	%	%	%	%	
知 っ て い る	136	60.2	65.0	57.1	61.4		
知 ら な い	62	27.4	32.5	23.5	29.5		
無 記	28	12.4	2.5	19.4	9.1		
計	226	100.0	100.0	100.0	100.0		

表4-5 その内容を知っているか

	全 体		青 年		成 人		婦 人
	実 数	%	%	%	%	%	
計画をたてていることを知っている人数	136	100.0	100.0	100.0	100.0		
内容を知っている	108	79.4	92.3	82.1	70.4		
内容まで知らない	9	6.6	3.8	5.4	9.3		
無 記	19	14.0	3.8	12.5	20.4		

次にその内容まで知っているか否かをみると、表4-5に示すように、80%近くはその内容まで知っていると答えている。とりわけ青年層は内容を知っているとする者が多い。

更に分館活動計画で知っている内容を具体的に書いてもらった。すると、大多数の者は、敬老会、成人式、祭典をあげた。そして、講習会、研修会等をあげた者は1割にも満たなかった。

今回調査した部落の分館活動の計画表をみると、いずれも講習会や研修会、学習会等がもりだくさんに組まれており、敬老会、成人式はもちろん活動の主流ではない(三つの分館の計画書を、表1-4、表4-6、表4-7に示した)。

こうしてみると、住民達の分館活動に対する評価はまだまだ不十分な点が多いといえよう。

表4-6 中里分館の昭和43年度活動計画

老人クラブ結成式	1回	婦人懇談会	1回
老人クラブ講演会等	1回	農協青年部座談会	1回
敬 老 会	1回	青年団支部交流会	1回
青年会例会	2回	部落づくり講習会	1回
農事研究会	3回	料理講習会	1回
営農懇談会		盤 持 大 会	1回
研 修 会	2回	全町体育祭参加	1回
七夕花火大会	1回	総 会	2回
若妻研修会	1回		

表4-7 緑丘分館の昭和43年度活動計画

新年レクリエーション集い	1回	営農相談会	3回
民謡講習会	2回	営農懇談会	
料理講習会	1回	子供盆踊り会	2回
敬 老 会	1回	肥料・ソ菜講習会	1回
堆肥栽培講習会	1回		

第5章 公民館のあり方と活動の範囲

1 住民の考える公民館のあり方

彼等は公民館活動をどのようなイメージとしてとらえているのであろうか。そのポイントになるような点をいくつかひろいだして一連の質問をこころみた。

(1) 公民館までの距離とその設備について

14 公民館までの距離とその設備について次の四つの考え方があります。最もあなたの考えに近いものをえらんで一つだけ○をつけて下さい

イ) 町の中心から遠い人には不便だが、中心地に設備が充実した公民館をたてるべきである

ロ) 中心以外の市街地の人々の利用も考えて、設備のかなりととのった公民館を主な市街地3～4カ所にたてるべきである

ハ) 市街地の外に住む人々も利用しやすいように、設備は多少おとっていても小学校区単位に公民館をおくべきである

ニ) 僻地に住む人々も気がるに利用できるように、設備は不十分でも各部落又は農事組合ごとに公民館をおくべきである

ホ) わからない

より多くの地点に設備が充実した公民館がたてられたればそれにこしたことはないが、現実には、設備のよいものを求めるとその数が少なくなり、数を多くすると設備が悪くなる。住民は設備が悪くとも手近なところに公民館をもちたいと考えているのか、多少遠くとも中心に非常に充実した公民館があればと考えているのか。もちろんその中間的な考え方もある。

表5-1 公民館までの距離と設備との関係

	全 体		青年	成人	婦人
	実数	%	%	%	%
調 査 人 数	226	100.0	100.0	100.0	100.0
イ 中央公民館中心	24	10.6	17.5	12.2	5.7
ロ 主要市街地単位の公民館中心	30	13.5	27.5	15.3	6.8
ハ 小学校区単位の公民館中心	16	7.1	—	8.2	9.1
ニ 部落（農事組合）単位の公民館中心	128	56.6	50.0	56.1	60.2
ホ わからない	7	3.1	—	1.0	6.8
無 記	21	9.3	5.0	9.2	11.4

結果は表5-1に示すとおりである。全体では、部落（農事組合）単位の公民館を望む声が圧倒的に多く、全体の57%を占める。次いで、主要市街地単位の公民館を中心とすべきであるという中間的考えが13%、中央公民館中心の意見は10%にとどまった。そして小学校区を単

位とする公民館を中心に考える考え方はわずか7%であった。対象別にみると、部落（農事組合）単位の公民館を中心におくべきとする考えはとりわけ婦人、成人に多い。そうしたなかで、青年は、数少なくとも設備のよい公民館を望む考えが45%を占めるのが注目される。

手近なところにあり気軽に利用できることはたしかに大切なことであろう。しかしよりよい設備の下での学習ということは、近頃各地で行なわれている学校統合の大きな要素となっており、日進月歩の科学技術に対応してゆくにはみのがせない考え方といえる。そして交通事情等も更によくなることを考えるとあまり小単位の公民館に固執していることは問題といえよう。

(2) 公民館活動中の学習とレクリエーションの関係

15 公民館は学習の場だと思いますか、レクリエーションの場だと思いますか、次の項目から一つだけえらんで○をつけて下さい

イ) 公民館は学習の場でなくてはならず、学習を全面的にとりあげるべきだ

ロ) 公民館は学習の場であることは望ましいが、当面はレクリエーションも部分的にとりあげるべきだ

ハ) 当面レクリエーションをとりあげ、気運がでてきたら部分的に学習もとりあげてゆくべきだ

ニ) 学習などかたいことはいわずに、住民のたのしいこいの場としてレクリエーションを今後をもつぱらとりあげてゆくべきだ

ホ) わからない

現実の問題として、住民は公民館活動中の学習とレクリエーションをどのように考えているのであろうか。

表5-2に示すように、学習主、レクリエーション従とする考えが最も多く（42%）、次いでレクリエーションをもつぱらとする考えが多い（32%）。レクリエーション主・学習従の考えや、学習をもつぱらとする考えは少ない。

表5-2 公民館活動中の学習とレクリエーションの関係

	全 体		青年	成人	婦人
	実数	%	%	%	%
調 査 人 数	226	100.0	100.0	100.0	100.0
イ 学習を全面的にとりあげる	11	4.9	—	5.1	6.8
ロ 学習主・レクリエーション従	94	41.6	72.5	35.7	34.1
ハ レクリエーション主・学習従	19	8.4	10.0	7.1	9.1
ニ レクリエーションをもつぱらとりあげる	72	31.9	17.5	37.8	31.8
ホ わからない	10	4.4	—	5.1	5.7
無 記	20	8.8	—	9.2	12.5

学習主・レクリエーション従の考えは青年層に非常に強くみられる考え方であるが、成人、婦人もこの考え方をとる者が多い。ただ、一方ではレクリエーションをもっぱらとりあげようとする考え方もそれに近い比重を占めている。とりわけ成人層では、学習などかたいことはいわないで…という雰囲気が高くレクリエーションをもっぱらとする考え方が最も多数を占めている点注目される。

レクリエーションをもっぱらとする考え方が意外に強かったことは、公民館活動の考え方をもう一つ脱皮させる必要性を感じる。

(3) 教育委員会が分館に行なう援助のやり方について

16 町（教育委員会）はどのような考え方で分館に接してほしいと思いますか、次の項目から一つだけえらんで○をつけて下さい。

- イ) 町は分館に対する経済的援助も指導助言もできる限り大幅に行なってほしい
- ロ) 町は経済的援助はできるだけ行なうが、指導助言はある程度ひかえて部落（農事組合）の自主性を尊重してほしい
- ハ) 活動上の経済的な面は部落（農事組合）段階でなんとかするが、指導助言は特に必要としておりその方に力をいれてほしい
- ニ) 分館活動は本来住民の自由な活動であるから、経済的な援助や指導助言を極力さけて住民自身の力で活動できるようにしてほしい
- ホ) わからない

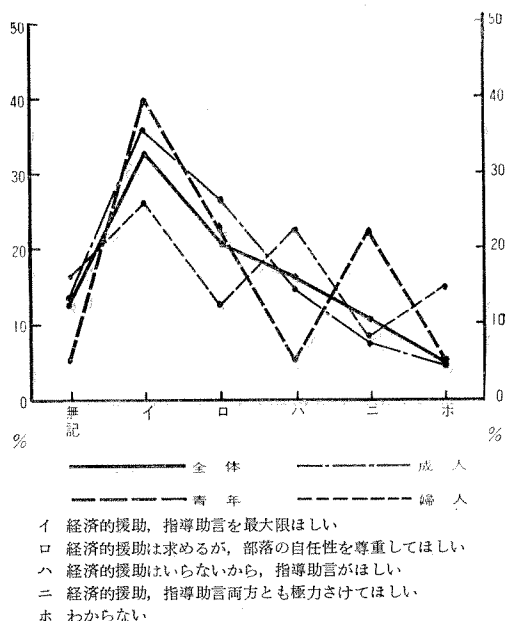
教育委員会（中央公民館）が分館に対して行なう援助は、経済的なものと指導助言と両方が考えられる。住民は教育委員会が行なう指導助言や経済的援助についてどのように考えているのか。両方ともほしいのか、両方ともいらないのか、いずれか一方を必要とするのかに分けてみた。

結果は図5-1に示すように、両方とも最大限にほしいと考える者が32%、経済的援助だけを求める者が20%、指導助言の方を特に求める者が16%で、両方いらないとする者が10%である。前二つの質問と異なりかなりいろいろな意見が比率の上で接近してでてきている。

対象別にみると青年、成人、婦人ともかなり異なった傾向がみられる。

経済的援助と指導助言を最大限にほしいとする考えは、婦人層の中でこの考え方をとる者が他の層に比較して少ない点は指摘できるとしても、すべての層で最も高い比重を占めている。婦人層は、経済援助はいらないが

図5-1 教育委員会が分館に行なう指導助言と経済的援助



指導助言がほしいとする考えが、その次に多く、指導助言を特に求める声強い。それに対し、成人・青年層は、経済的に援助は求めるが、部落の自主性を尊重してほしいとする考え方が、2番目に多い。つまり、婦人とは逆に、経済的援助はほしいが指導助言はあるていど控えてほしいという考えがむしろ強い。成人と青年を比較した場合、青年の経済的な面は部落でなんとかするから指導助言をほしいとする考えの支持率が特に低いことをみると、青年の方が指導助言を控えてほしいとする考えが強いといえる。

経済的なことはともかく指導助言を…と考える婦人層は、指導助言が自主性をそこなうとは考えていない。それに対し、成人や青年は指導助言が自主性をそこなうことを心配しているようである。だからあまり口はだしてもらいたくないという考え方が強くならざるをえない。

しかし、ここで更に注目すべきは、分館活動は本来住民の自由な活動なのだから、教育委員会は経済援助も指導助言も極力さけてほしいとする考えが全体では10%だったのに、青年層にはそうした考えの者が20%以上もいることである。あまり他人にたよらずに、極力我々の力でやろうではないか…という考え方が、分館活動の中で大切なことなのではなからうか。

(4) 意識水準の統合的評価

以上三点にわたる観察の結果、青年・成人・婦人の各層はそれぞれ公民館活動に対して異なったイメージをも

住民の公民館利用とその意識

った点が目立った。

今、層から共通の因子をとりだしてまとめてみると、公民館は設備は悪くとも身近かなところにある方がよく、そこでは学習主・レクリエーション従の活動がなされ、それをおしすすめるために、教育委員会の物心両面の最大限の援助を求めている、ということであろう。

一方異なった因子をとりだしてみると、青年は、身近かでなくともよい設備の公民館をもち、そこで学習主・レクリエーション従の活動をできるだけ他人の力をかりずに自主性をもってすすめていこうとする考えが相対的に高い。成人は、設備は悪くとも身近かなところに公民館をおき、そこでレクリエーションをももつぱらとする活動を、経済的援助はうけるがあまりやかましいことを他からいわれることなく行なっていきたいとする考え方が相対的に多い。最後の婦人は設備は悪くとも身近かなところに公民館をおき、そこで学習主・レクリエーション従の活動を教育委員会の指導助言の下におしすすめていきたいとする考え方が相対的に多いことになる。

青年・成人・婦人の考え方をそれぞれ比較してみると、青年のもっている考え方が、公民館の理想に最も近いように思われる。成人・婦人の考え方は、意識水準からみてまだ低い面があることが指摘できよう。

2 公民館活動の範囲

何が公民館活動でなにが公民館活動でないのかを明瞭に区別できるような判定基準をみいだすことは、非常に困難なことである。まして、最も末端の組織であを部落会や農事合活動と公民館活動が同時に同じ住民についてなされる分館活動においては、よほどその実態をくわしく調べぬ限り区別は更に困難というほかはない。こうした部落会（農事組合）活動と公民館活動の区別を、住民は彼等なりにどのように考えているのであろうか。公民館活動としては異論のありそうな15種類の活動について調べてみた。

17 部落活動と公民館活動はどこで線をひくべきだと思いますか（次の中から公民館活動だと思う項目には（ ）の中に○印を、公民館活動には入らないと思う項目には×印をつけて下さい）

- イ) 営農計画、農産物販売等のうちあわせ
- ロ) 防犯、防災活動
- ハ) 親睦会、交流会
- ニ) 部落会や農事組合加入者の相互扶助活動
- ホ) 老人クラブ活動
- ヘ) 子供会活動
- ト) 体位向上、体力増進を目的とする体育行事

- チ) PTA活動
- リ) 農協活動
- ヌ) レクリエーションを主とする遠足旅行
- ル) 生活改善事業
- ヲ) 農業改良事業
- ワ) 保健衛生活動
- カ) 公明選挙運動
- ヨ) 交通安全活動

成人8人、婦人7人の無記入があるが211人が回答をした。このうち15項目全部に○印をつけた者が18人いた。この人々の考え方は公民館の分館で行なわれる活動はすべて公民館活動であるというのであろう。この18人中15人は成人、3人は婦人で、成人層にこの考え方の者が特に多い。全般的な部落活動に接する彼等成人にとっては、公民館活動か否かをいちいち考えて行動するにはあまりに繁雑なので、いっそのこと全部公民館活動としてわりきってしまった方がよいと考えたのかもしれない。

表5-3 部落内の諸活動で、公民館活動に入ると考える者の比率とその順序
(M・A)

全 体 の 順 位	全 体			青 年 順 位	成 人 順 位	婦 人 順 位
	○	×	ムキ			
1 生活改善事業	75.5	4.4	22.1	③	①	②
2 保健衛生活動	72.6	7.1	20.4	②	②	①
3 親睦会交流会	67.3	8.8	23.9	①	③	③
4 老人クラブ活動	64.2	15.0	20.8	④	③	③
5 子供会活動	60.6	14.6	24.8	⑤	④	③
6 部落会、農事組合加入者の相互扶助活動	60.2	16.8	23.0	④	⑤	④
7 農業改良事業	58.0	19.9	22.1	⑥	⑥	⑦
8 交通安全活動	55.8	21.2	23.0	⑥	⑦	⑧
9 PTA活動	55.8	22.6	21.7	⑬	⑧	⑧
10 公明選挙運動	50.4	26.5	23.0	⑩	⑪	⑩
11 体位向上・体力増進を目的とする体育行事	49.6	26.5	23.9	⑫	⑨	⑩
12 防犯、防災活動	46.9	27.9	25.2	⑪	⑫	⑪
13 営農計画、農産物販売等のうちあわせ	44.2	34.5	21.2	⑦	⑭	⑫
14 農協活動	35.0	41.6	27.9	⑭	⑮	⑬
15 レクリエーションを主とする遠足旅行	32.3	42.9	24.8	⑮	⑮	⑭

○印の比率が同じ比率の場合、×印の低い方を上位とした。

各項目に○×をしてもらったが、項目別の無記入も4分の1から5分の1程度を占める。全体で○印をつけた人の割合の多かった順にまとめたのが、表5-3である。公民館活動に入ると考える者が多かった上位五つの活動は、生活改善事業、保健衛生活動、親睦会・交流会、老人クラブ活動、子供会活動があげられる。一方、公民館活動に入ると考える人が半数以下で、率の低かった活動も五つある。下から順に、レクリエーションを主

とする遠足旅行（以下レクリエーションと略す）、農協活動、営農計営・農産物販売等のうちあわせ（以下農事うちあわせと略す）、防犯・防災活動、体位向上・体力増進を目的とする体育行事（以下体育行事と略す）がそれである。つまり、家庭生活上直接必要な活動や、集会所を拠点とする対象別活動を公民館活動の範囲に加える者が多いのに対し、体育・レクリエーション面の活動や、農協活動やそれに近い分野の活動は公民館活動と考えない者が多いことが傾向としていえる。

全体の傾向と比較して、対象別ではどのような特徴がみられるのであろうか。比較を簡略化するために、対象別にみた順位だけを示し、順序のズレから傾向をつかまえてみよう^{注17)}。

青年は、全体の順位より高い順位になった項目5、低い順位の項目5であった。この高い順位の5項目をみると、農事うちあわせ、農業改良事業があり、農協活動以外の農業関係のことは公民館活動の領域と考える者が相対的に多い。全体より低い順位のものでは老人クラブ・子供会・PTAの各活動があり、対象別の活動は公民館活動の領域外と考える者が相対的に多くなっている。

成人は、全体より順位が高かった項目は6、低かったのも6あった。全体より高かった項目をみると、体育行事、レクリエーションがあり、又老人クラブ・子供会・PTAの各活動がある。つまり、体育レクリエーションの分野や対象別の活動を公民館活動と考える者が相対的に多い。全体より低かった項目をみると、親睦会、会員（組合員）の相互扶助があり、農業改良事業、農事うちあわせ、農協活動がある。部落民の親睦や助けあい及び農業関係の活動は公民館活動の領域外とする者が相対的に多い。

婦人は、全体の順位より高かった項目は6、低かった項目は5あった。全体より高かった項目をみると、老人クラブ、会員（組合員）の相互扶助があり、保健衛生、防犯・防災がある。つまり、奉仕や助けあいを必要とする活動や、病気や災害をふせぐ活動を公民館活動として相対的に重視する者が多い。全体の順位より低かった項目をみると、交通安全、公明選挙の活動があり、国民運動的な活動を公民館活動から除外して考える者が相対的に多い。しかし婦人の場合、PTA、老人クラブを相対的に重視しながら子供会を除外する傾向がみられ、対象別の活動同志に必ずしも一貫性がなく、青年や成人のようになんかの傾向をよみとめることは困難である。

第6章 学習と公民館活動

1 得たいと思う知識・技術

考察はやや本筋をはずれるが、ここで回答者が得たいと思っている知識技術をきいてみた。この結果がいかに公民館活動にむすびついてくるかをみることを意図している。質問項目は次のとおりである。

25 あなたが得たいと思う知識技術は何ですか、次の中のいくつかに○をつけたうえ、特にこれだと思うのに◎をつけて下さい

- イ) 洋裁, 和裁
- ロ) 経営の知識
- ハ) 家計のやりくりのしかた
- ニ) 奉仕活動のやり方
- ホ) 編物, 手芸
- ヘ) 法律の知識
- ト) 人をうまくまとめていく方法
- チ) 楽器のひき方
- リ) 料理, 栄養
- ヌ) 医学, 衛生の知識
- ル) 他人と心よく接していく方法
- ヲ) 絵のかき方
- ワ) お花, お茶
- カ) 社会, 経済の知識
- ヨ) すぐ役にたつ農業技術
- タ) 木ぼり, 彫刻のやり方
- レ) 書道, ペン字
- ソ) スポーツ知識
- ツ) 農業生産の基礎になる数学や理科の知識
- ネ) 自動車運転技術
- ナ) 簿記, 珠算
- ラ) 町や部落の歴史
- ム) スポーツ技術
- ウ) 一般的教養
- キ) 礼儀, 作法
- ノ) 子供のしつけ方
- オ) 何かの資格をとる→その内容 ()
- ク) 英会話, 外国語
- ヤ) 家計簿のつけ方
- マ) その他 ()
- ケ) 特になし

注17) 本来実数で比較すべきであるが、この場合順位で比較してもあまり傾向が異なつて来ないのでこの方法をとつた。

表6-1 得たいと思う知識技術

	全 体		青年		成人	婦人
	実数	%	実数	%	実数	%
調査人数	226	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
無回答あり	9	4.0	—	—	6.1	3.4
回答あり	217	96.0	100.0	93.9	93.9	96.6
ヨ すぐ役に立つ農業技術	106	46.5	32.5	62.2	55.2	55.2
ロ 経営の知識	87	38.6	50.0	56.1	14.8	14.8
ル 他人とよく接していく方法	79	35.0	47.5	25.5	39.8	39.8
ノ 子供のしつけ方	71	31.4	42.5	9.2	51.1	51.1
ハ 家計のやりくりのしかた	68	30.1	22.5	12.2	53.4	53.4
リ 料理、栄養	62	27.4	42.5	1.0	50.0	50.0
ウ 一般的教養	51	22.6	37.5	17.3	21.6	21.6
ツ 農業生産の基礎になる数学	48	21.2	22.5	34.7	5.7	5.7
ヘ や理科の知識	47	20.8	27.5	24.5	13.6	13.6
ニ 簿記、珠算	46	20.4	32.5	21.4	13.6	13.6
キ 礼儀作法	45	19.9	47.5	5.1	23.9	23.9
カ 社会経済の知識	43	19.0	30.0	18.4	14.8	14.8
ヌ 医学衛生の知識	41	18.1	22.5	8.2	27.3	27.3
ヤ 家計簿のつけ方	37	16.3	30.0	5.1	22.7	22.7
ホ 編物、手芸	33	14.6	25.0	—	26.1	26.1
ト 人をうまくまとめていく方法	31	15.7	20.0	9.2	15.9	15.9
ネ 自動車運転技術	27	11.9	30.0	4.1	12.5	12.5
イ 洋裁、和裁	26	11.5	27.5	1.0	15.9	15.9
レ 書道、ペン字	23	10.2	17.5	7.1	10.2	10.2
ラ 町や部落の歴史	18	8.0	10.0	6.1	9.1	9.1
ワ お花、お茶	15	6.6	17.5	—	9.1	9.1
チ 楽器のひき方	12	5.3	5.0	3.1	8.0	8.0
ム スポーツ技術	11	4.9	15.0	4.1	1.1	1.1
ク 英会話、外国語	11	4.9	15.0	5.1	—	—
コ スポーツの知識	10	4.4	10.0	1.0	5.7	5.7
オ 何か資格をとる	10	4.4	15.0	2.0	2.3	2.3
ラ 絵のかき方	8	3.5	2.5	1.0	6.8	6.8
マ その他	6	2.7	7.5	1.0	2.3	2.3
ク 特になし	4	1.8	—	1.0	3.4	3.4

31項目の中からいくつかえらんでもらったが、無記の9人を除く217人が27項目をえらび、のべ回答数は特になしというのを含めて1,035に達した。その結果を表6-1に示した。

これをみると、すぐ役に立つ農業技術というのが105人(46.5%)おり最も多く、経営の知識が87人、他人とよく接していく方法(79人)、子供のしつけ方(71人)がこれにつづく。以下家計のやりくりのしかた、料理・栄養、一般的教養などをあげる者が多い。つまり上位6位までは、日々の生産活動や生活に直接結びついた分野で、ただちに効果のあがるものを求めている。そして7～8位には、一般的教養、農業生産の基礎になる数学や理科の知識といった、基礎的な面をたかめる内容のものがみられる。趣味をゆたかにする一連の項目はいずれも下位を占め、まだ学習傾向が実利的な面にむいていることがわかる。

対象別にみると、それぞれかなり傾向が異なる。20%以上の者が学びたいと考えていたものは、全体で10項目あるが、青年では18項目もあり、婦人が10項目、成人は

6項目にすぎない。やはり青年の学びたいことが最も多種に及んでいる。

青年の30%以上が学びたいと考えているものは、経営の知識、他人とよく接していく方法、礼儀・作法、子供のしつけ方、料理・栄養、一般的教養、すぐ役に立つ農業技術、簿記・珠算、社会経済の知識、家計簿のつけ方、自動車運転技術等で、かなり多岐に及ぶ。

婦人の30%以上が学びたいと考えているものは、家計のやりくりのしかた、子供のしつけ方、料理・栄養、他人とよく接していく方法、すぐ役に立つ農業技術で、家庭生活に必要なものが非常に目立つ。

成人は、すぐ役に立つ農業技術、経営の知識、農業生産の基礎になる数学や理科の知識があげられ、農業経営への結びつきの強い面を求めている。

成人や婦人の学びたいことについては、それなりの多様性があるものの、主なものは既に予想されていたものばかりである。それに対し、青年は、実際的なことから趣味を豊かにすることまで多くの希望をもっており、その多くを反映させるのに容易ではない面がある。

1 特に学びたい事柄とそれを学ぶ場所

(1) 特に学びたいと思う事柄

一般的に学びたいとばかりでなく、と思っているものについては前節でみたが、その中でとりわけこれはやりたいと思うものを前節と同じ項目からあげてもらった。特に学びたいと思うものをあげたのは、172人(76.1%)であった。青年の85%が学びたいものとあげたのに対し成人の70%があげたにすぎない。

その結果を表6-2に示した。全体としての順序は、前節表6-1とさして大きな変化はない。つまり、一般的に学びたいと思っている者が多い項目は特に学びたいと思っている者も多く、結局同じような傾向になるということであろう。ただ法律の知識、家計簿のつけ方等は学びたいと思っている者は多かったが、特に学びたいと思っている者は少なかったのが目立ち、一方、何か資格をとりたいて考えている者は数少ないが真剣に考えている者が多く、特に学びたいと答えている者が半数に達していることが指摘できる。なおここでの資格の内容をみると、テレビ技師、洋裁師、保姆、栄養士などがあげられていた。

青年は、経営の知識、何か資格をとるという項目をあげた者が多く、成人はすぐ役に立つ農業技術、経営の知識をあげ、婦人は家計のやりくりのしかた、料理・栄養が主にあげられた。対象別にみると、青年では他人とよく接していく方法を、成人では農業生産の基礎になる数

表6-2 これは特に得たいと思う知識技術 (M・A)

	全 体		青年	成人	婦人
	実数	%	%	%	%
調査人数	226	100.0	100.0	100.0	100.0
無特に得たい知識技術のある者の数	54	23.9	15.0	26.6	21.6
	172	76.1	85.0	70.4	78.4
ヨ すく役に立つ農業技術	34	19.0	10.0	26.5	4.5
ロ 経営の知識	28	12.4	12.5	22.4	1.1
ハ 家計のやりくりのしかた	21	9.3	2.5	1.0	21.6
リ 料理、栄養	21	9.3	7.5	—	20.5
ル 他人とよく接していく方法	13	5.8	10.0	6.1	3.4
ノ 子供のしつけ方	9	4.0	2.5	—	9.1
ツ 農業生産の基礎になる数学	8	3.5	2.5	5.1	2.3
ウ 理科の知識	7	3.1	10.0	—	3.4
カ 社会経済の知識	5	2.2	2.5	4.1	—
オ 何か資格をとる	5	2.2	12.5	—	—
イ 洋裁、和裁	4	1.8	5.0	2.0	—
ナ 簿記、珠算	4	1.8	2.5	—	3.4
キ 礼儀、作法	3	1.3	5.0	—	1.1
ホ 編物、手芸	3	1.3	—	—	3.4
ヘ 医学、衛生の知識	2	0.9	—	—	2.3
レ 書道、ペン字	2	0.9	—	1.0	1.1
ネ 自動車運転技術	2	0.9	5.0	—	—
ワ お花、お茶	2	0.9	—	—	2.3
ヤ 家計簿のつけ方	2	0.9	2.5	—	1.1
ヘ 法律の知識	2	0.9	—	1.0	1.1
チ 楽器のひき方	1	0.4	—	—	1.1
ソ スポーツ知識	1	0.4	—	1.0	—
ク 英会話、外国語	1	0.4	—	1.0	—
ト 人をうまくまとめていへ方法	1	0.4	—	—	1.1

学や理科の知識を、婦人では子供のしつけ方を学びたいとしてあげた者が多かったのに、特に学びたいとする者

は少なかった点が目立つ。

(2) 学習に利用する機関

特に学びたいと思っている事柄を、彼等はさしあたりどこで学ぼうと思っているのであろうか。その点を質問した。

25-S Q (とりわけ得たい知識技術がある方に) その知識技術 (問25で○をつけた項目) をあなたはさしあたりどこで学びたいと思っていますか

- イ) 高等学校
- ロ) 各種学校
- ハ) 農業学園
- ニ) 青年学級、婦人学級、家庭教育学級
- ホ) 農業講座、講習
- ヘ) 生活講座、講習
- ト) 衛生講習、講座
- チ) ラジオ講座
- リ) テレビ講座
- ヌ) 高校通信教育
- ル) 大学通信教育
- ヲ) 社会通信教育
- ワ) 図 書
- カ) 新聞、雑誌
- ヨ) リーダー講習
- タ) 青年団体、婦人団体、他サークル
- レ) ボランティア講習

表6-3 特に学びたい事柄をさしあたりどこで学ぶか

	ヨ	ロ	ハ	リ	ル	ノ	ツ	ウ	カ	オ	イ	ナ	キ	ホ	ヌ	レ	ネ	ワ	ヤ	ヘ	チ	ソ	ク	ト	計
	すく役に立つ農業技	術の知識	家計のやりくりのし	料理・栄養	他人とよく接してい	子供のしつけ方	農業生産の基礎的な知識	一般的教養	社会経済の知識	何か資格をとる	洋裁・和裁	簿記・珠算	礼儀・作法	編物・手芸	医学・衛生の知識	書道・ペン字	自動車運転技術	お花・お茶	家計簿のつけ方	法律の知識	楽器のひき方	スポーツの知識	英会話	人をうまくまとめて	
特に学びたいと思う人数	34	28	21	21	13	9	8	7	5	5	4	4	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	181
利用する項目無記	2	2	—	2	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
利用する項目のべ票数	38	39	25	26	18	7	12	9	5	6	5	5	3	3	2	2	2	3	3	1	1	2	2	2	221
ロ 各種学校	1	1	—	1	—	—	—	—	—	5	1	2	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	12
ハ 農業学園	4	3	—	—	1	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12
ニ 青年学級、婦人学級、家庭教育学級	2	1	12	12	4	5	—	2	—	—	3	2	1	1	1	—	2	1	1	1	—	—	—	1	55
農業講座、講習	24	18	—	1	—	5	—	3	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	52
ホ 生活講座、講習	1	—	2	1	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	9
ト 衛生講習、講座	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
チ テレビ講座	—	2	—	2	1	1	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	10
ワ 図 書	—	3	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	5
カ 新聞、雑誌	3	5	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	12
ヨ リーダー講習	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	3
タ 青年団体、婦人団体、他サークル	1	3	9	5	4	1	—	1	2	—	1	—	—	2	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	31
ル 大学通信教育	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
ソ その他	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—	5
ツ きめていない	1	2	2	1	4	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12

住民の公民館利用とその意識

ソ)その他()
ツ)きめていない

利用しようと思っているものをいくつかえらんでもらった。特に学びたいと思う項目別にまとめたのが表6-3である。

最も多くの人が利用しようと思っていたのは、青年学級・婦人学級・家庭教育学級であった。次に農業講座・講習、青年団体・婦人団体・サークルがつづく。この三項目(学級、講座、団体活動)が群をぬいており、各種学校、農業学園が次にでてくる。更に新聞、雑誌、テレビの順になる。あとは生活講習、講座が目立つ程度で、あげた者の数は少ない。

以上生活講習講座までの上位8つの項目をみると、まず社会教育活動として公民館が真っ先にとりあげなくてはならない項目が四つもあげられ、うち三つは群をぬいている。つづいて学校教育、産業教育に近い2項目(各種学校、農業学園)があげられ、更にマス・メディアが三番目の類型のものとしてあげられてくる。

つまり公民館でなされる学級、講座、団体活動が、彼等の学習意欲を満たす最大のそして全くかけがえのないよりどころとなっていることがわかる。

しかし、表をみていくと一つの問題を感じざるをえない。それは学級、講座、団体活動にあまりにも多種のことを期待してすぎはしないかということである。テーマがかなり限定されている講座は別として、学級や団体活動は特になんでもこなすことを求められているようである。知識技術、人間関係、趣味にいたるまで、彼等は学級や団体で学ぼうと思っている。ここいらに現在おかれた学級や団体活動のむずかしさを感じるのである。

ともあれ、住民の公民館に対する期待はまことに大きいといわねばならない。

第7章 む す び

1 各質問項目のまとめ

3章～6章までにいろいろの角度から質問をし、そこにみられた傾向を観察してきた。その結果をここに簡単にまとめてみる。

北部及び栗山周辺部落の地区館をかねた中央公民館は、結構利用されているものの、周辺地域の人々にとっては非常に中途半端なもので、中央館としてはもとより、栗山周辺部落の地区館としての役割もはなはだあいまいである。

市街地中心の地区館は、できたばかりで管理運営両面

の態勢が充分ではないせいか、対象地域内でも知らない人が相当おり、利用状態もあまりよくない。

小学校区単位の地区館は、利用状態をみると利用層や利用数にむらがみられるが、周辺住民にとって、かなり身近かな存在になっている。しかし、教育委員会と分館の間にあって、区域内の分館を掌握する役割はほとんどはたされていない。住民は分館の掌握機関ではなく、PTA、校下子供会等の学校教育の分野に近い公民館活動をするところと認識している。

分館は、本来部落や農事組合の集会所であったせいもあるが、大部分の人が利用しており、利用回数も月1回以上利用する者が7割を占めている。青年、成人、婦人を問わず非常に身近かな存在になっていることがわかる。

分館を利用する用件をみると、部落会(農事組合)や団体(サークル)の用件で利用すると答える者が多く、公民館分館(教育委員会)の用件で利用するという答えは非常に少ない。利用目的は、学習・講座なども多いが、それにもまして、総会その他会合や親睦会、交流会が多く、全体の半数を占める月1回～2週間に1回程度の利用者の利用機会の多くはそうしたことでついやされてしまっているようである。

分館は、住民の合議の下に年次計画をたてて活動しているが、そうした事実を知らない者も相当おり、知っている者も最も印象に残っているものとして敬老会、成人式、祭典などむしろ分館の主活動ではない面をみていることが指摘できる。つまり住民が分館活動を実際にどのくらい認識して行なっているかという点になると、かなりあいまいな面がある。

しかし彼等は一様に部落(農事組合)会館が分館に指定されてよかったという。そしてよかったと思う点として、部落会のやり方が改善された点を第一にあげる。それは、部落会への出席率の上昇、時間厳守、婦人・青年もきがるに利用するようになった等、住民の自覚をうながしたとするみかたのうえにたったものである。そしてかえって悪かったと思う点をあげた者はほんの少しにすぎなかった。

住民は身近かなところに公民館があることを本当によろこんでおり、かれらにとってはなくてはならぬ存在になっているかのようなのである。各会館の分館指定は、直接公民館活動そのものに影響を及ぼしたと考えられる面は少ないが、そこで行なわれる部落会や団体活動等に間接的ではあるがそれなりに有効な影響を与えたといえそうである。

彼等の大部分は分館活動を気に入っているばかりでは

なく、この方式の公民館活動は最良のものだと考えている。つまり設備が貧弱でも身近なところに公民館があることを望む者が多い。しかしそこで行なわれる公民館活動は、学習主レクリエーション従とする考え方が最も強いものの、学習などとかたいことはいわないで…という雰囲気もそれにおとらず強く、又、分館の運営にあたっては、教育委員会からの物質的・精神的援助の少なくともいづれか一方を強く望む声が圧倒的で、分館活動はあまり人にたよらないで自主的にやるべきだとする考え方は少ない。

分館を場として行なわれる活動でも分館活動に入らないものもあるとする考え方が多く、農協活動、農事うちあわせや、体育行事、レクリエーション行事は公民館活動ではないとする考え方が強い。

結局、分館活動というものを彼等なりに認識したものの、学習を主とし自主性をやしなう意識はまだ低く、安易な面がみられる。しかし青年層の中にはそういった点でかなりしっかりした考えをもった者が多い。

分館を学習の場としてとらえる姿勢は高いとはいえないが、彼等に学習意欲がないということではない。家庭生活や農業経営にすぐ役立つ事柄を学びたいと考えている者はとても多い。それらの希望を満たす場として、公民館でなされる学習活動は多くを期待しているのである。

2 本研究の課題に対する回答

本研究には第1章末尾で述べたような三つの課題があった。

まず第1に、部落（農事組合）会館の分館指定という教育委員会の上からの公館編成化を、住民がどのように受けとめたかをみよう。

再三述べたように、分館指定に対し多少の不満を述べた者は若干あったが、分館そのものの存在を否定した者は1人もいなかった。それのみか、指定されてよかったと思われる点をもりだくさんにあげて、積極的賛意を表した者が大多数であった。住民すべてが両手をあげて歓迎しているようにさえみえる。こうした住民のうけとめ方は、予期していた以上のものであった。

第二の課題に移ろう。この方式の結果としてでてきたと考えられる住民の意識水準はどのようなものなのだろうか。

住民は従来の集会所と異なって分館にみられる何か新しいよさというものをはだで感じているようであるが、それは結局、公民館のもっている開放性であり、又他の面にみられる折目の正しさではないのだろうか。こうし

たことを理解したとすれば、公民館のもつ一つの大切な側面を理解したことになり、大きな一つの成果といえよう。しかし公民館についての意識水準からいくと、これらは最も高いものではないように思う。彼等の多くが、公民館のもつ学習的な側面や、住民の自治の側面をいまだよく理解しているとはいえない。この点こそが、住民に求める意識水準の最高のものではないのだろうか。

第三の課題は、町内の各公民館の編成を、教育委員会が未来像として考えるような編成（表1—5参照）にしていくことが可能か否かということである。

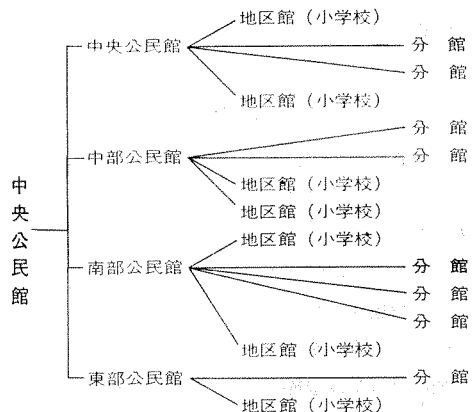
これまでみてきたように、最も小単位の公民館である分館は、解消することなど思いも及ばず、むしろ発展を予想できる。つまり、分館は将来も住民の身近な館として存在するであろうということである。

問題のポイントは、目下建設中の中央公民館とこれら分館をつなぐ中継点としての地区館の役割を、小学校区単位の地区館から市街地中心の地区館に移して、小学校単位の地区館を廃止できるか否かである。

再三述べたように、現状では小学校区単位の公民館は区域内の分館を掌握するという役割をほとんどはたしておらず、市街地中心の地区館の充実を計れば、市街地中心の分館方にそうした役割を移すことは簡単であろう。しかし、この調査の結果からみて廃止はできそうにない。それは、小学校区単位の地区館はPTAや子供会活動等学校教育に近い分野の公民館活動を行なっている。少くとも住民の多くはそう考えている。つまり、学校でなくてはできない活動分野を分担していると考えられているのである。したがってこれを廃止することは大変困難に思う。

だから、現在ある中央公民館、市街地中心の公民館、

図7—1 予想される公民館編成 1



4 館

10館

45～50館

図 7—2 予想される公民館編成 2

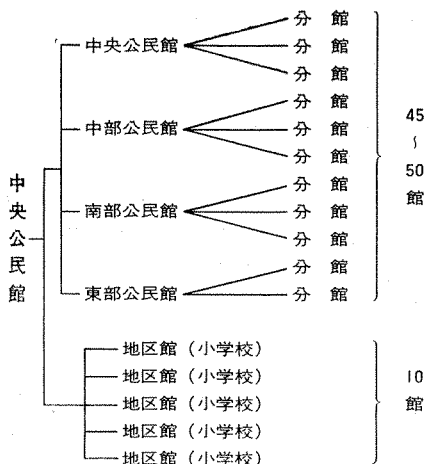
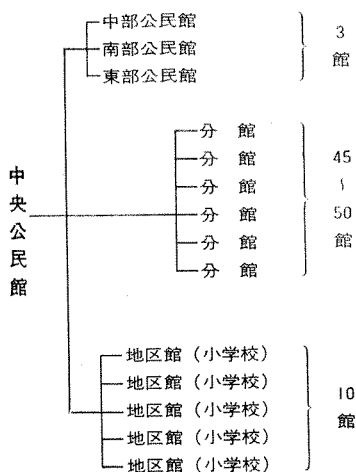


図7—3 予想される公民館編成 3



小学校区単位公民館，分館の４種類はすべて存在することになる。

予想される公民館の編成は教育委員会の考えているものより複雑にならざるをえない。

結局市街地中心の地区館の指導助言面の充実の具合によって、三つの場合が考えられる。図7-1は、市街地中心の地区館の充実が理想的にいった場合で、小学校区単位の公民館と分館の相方を掌握する役割がはたせるときである。図7-2は、市街地中心の地区館が少し弱体の場合で、小学校区単位の公民館は中央公民館が掌握することを想定している。図7-3は、市街地中心の公民館が全く他の館を掌握する力がない場合で、中央公民館が60~65館という多数の公民館を一手に掌握することを想定したものである。

2 番目の場合はいざしらず、3 番目は中央公民館にかかる負担は大変なもので、又掌握も非常に複雑にならざるをえず、公民館活動を混乱せしめ、停滞を招く事態も予想できる。こうしたことをさけるためには、市街地中心の公民館の指導助言の面での充実が絶対条件になってこよう。いずれにしても、従来のシステムからのある程度の転換がせまられていることは事実である。

栗山町のこの方式は、へたをするとか公民館活動を混乱させる可能性もあるが、ある程度住民意識を高め、明るい部落づくりの一助となる有効な一手段であることはたしかである。しかし、この方式を今後つづけることによって、地域課題を自主的に解決していく能力のある人々を多くそだてることができるか否かは問題があり、更にいろいろな工夫が必要である。

3 公共的施設充実の中の社会教育施設

町のすみずみまで公民館活動を徹底させようとするやり方は一応成功し、公民館への認識も深まり、彼等の学びたいことを学ぶうる場として、大きな期待をもっていることもわかった。

社会教育活動がゆきわたっていると考えられるこの町で、実際に社会教育施設の充実を望む声はどのくらいあるのだろう。のいささとつびな感じがするが、次の質問をしてみた。

23 今かりに町で自由に使うことのできる金が五千万円
あったとしたら、あなたは何に使ったらよいと思いま
すか（次の中から三つだけえらんで○をつけて下
さい）

- イ) 道路整備
- ロ) 農地の改良
- ハ) 工場誘致のための用地確保
- ニ) 防災施設，設備の充実
- ホ) 公園の整備
- ヘ) 部落会館，農事組合会館の充実
- ト) 幼児園，保育所の増加
- チ) 社会福祉施設の充実
- リ) 学校施設，設備の充実
- ヌ) 公民館，図書館の建設
- ル) 博物館，郷土館の建設
- ヲ) 青年の家の建設
- ワ) 農業センターの建設
- カ) その他（

表7-1に示した結果をみると、農地の改良、道路整備、農業センター建設物の三つが群をぬいている。そして、青年の家の建設、公民館・図書館の建設はやっと8

表7-1 5000万円の金があったら充実してほしい施設

	全 実数	体 %	青年 %	成人 %	婦人 %
調査人数	226	100.0	100.0	100.0	100.0
無回答人数	4	1.8	—	2.0	2.3
	222	98.2	100.0	98.0	97.7
ロ 農地の改良	132	58.4	42.5	72.4	50.0
イ 道路整備	117	51.8	32.5	53.1	59.1
フ 農業センターの建設	101	44.7	57.5	43.9	39.8
へ 部落会館の充実	47	20.8	15.0	21.4	22.7
チ 社会福祉施設の充実	45	19.9	32.5	19.4	14.8
ト 幼児園、保育所の増加	32	14.2	17.5	12.2	14.8
リ 学校施設、設備の充実	32	14.2	7.5	7.1	25.0
ヲ 青年の家の建設	25	11.1	47.5	2.0	4.4
ヌ 公民館、図書館の建設	21	9.3	25.0	5.1	6.8
ニ 防災施設、設備の充実	19	8.4	5.0	6.1	12.5
ハ 工場誘致のための用地確保	18	8.0	2.5	12.2	5.7
ホ 公園の整備	5	2.2	7.5	—	2.3
ル 博物館、郷土館の建設	3	1.3	2.5	2.0	—
カ その他	4	1.8	—	4.1	—
計	601				

位と9位にでてくる。博物館や郷土館等の建設は最下位である。

つまり、もし少しゆとりができれば、直接生産や産業基盤の充実に結びつくことに使うことを考える人が非常に多く、公民館や青年の家等のことは三の次ぐらいしか考えられなかった。

最近までみるべき社会教育施設はなにひとつもたず、公民館活動の普及にひたすらつとめて、ある程度成功したように思われるこの町においてすら、中央公民館の要望はこの程度のものである。公民館活動を普及させるために集会所を分館に指定したということは、部落会館の充実にその要望が集ってしまったのかもしれない。

日々重要だいわれ、かなり理解されながら、他のものに優先されてしまう社会教育の姿の一端をここにみることがができる。公民館活動、社会教育の効果が住民の間にいろいろな面で定着していくには、まだ多くの困難があるといえよう。

しかし、各町村の実態がそれぞれ異なるとはいえ、こうした事例を基礎にして各々に適合するよう、又より次元の高い方式をうみだすよう努力していくことは、大切なことである。

住民の公民館利用とその意識

町民の方々にお願い致します

北海道大学教育学部 高倉 嗣 昌

○ 御自分のお考えをおきがるにお答え下さい

○ たくさんあって大変だろうと思いますが、どうぞ最後までよろしく願い致します

1 あなたは中央中民館をこの1年間に何回ぐらの割合で利用なさいましたか

- イ) 1回もない ロ) 年1～2回程度 ハ) 年3～4回程度 ニ) 2カ月に1回程度
ホ) 月1回程度 ヘ) 2週間に1回程度 ト) 週に1回程度 チ) 週1回以上

2 あなたは継立市街に最近「南部公民館」が建設されたのを御存じですか

- イ) 知っている ロ) 知らない

2—S Q (知っている方に) それを実際に利用なさったことがありますか

- イ) ある ロ) ない

2—S Q (利用したことのある方に) それはどのぐらの割合で利用なさいましたか

- イ) 年1～2回程度 ロ) 年3～4回程度 ハ) 2カ月に1回程度 ニ) 月1回程度
ホ) 2週間に1回程度 ヘ) 週に1回程度 ト) 週1回以上

3 あなたは角田市街に「中部公民館」があることを御存じですか

- イ) 知っている ロ) 知らない

3—S Q (知っている方に) それはこの1年間に何回ぐらの割合で利用なさいましたか

- イ) 1回もない ロ) 年1～2回程度 ハ) 年3～4回程度 ニ) 2カ月に1回程度
ホ) 月1回程度 ヘ) 2週間に1回程度 ト) 週に1回程度 チ) 週1回以上

4 あなたはあなたが住んでいる地域を学区とする小学校に公民館(地区館)がおかれていることを御存じですか

- イ) 知っている ロ) 知らない

4—S Q (知っている方に) それをこの1年間にどのぐらの割合で利用なさいましたか

- イ) 1回もない ロ) 年1～2回程度 ハ) 年3～4回程度 ニ) 2カ月に1回程度
ホ) 月1回程度 ヘ) 2週間に1回程度 ト) 週1回程度 チ) 週1回以上

5 あなたの属する公落又は農事組合にある公民館(分館)をこの1年間に何回ぐらの割合で利用なさいましたか

- イ) 1回もない ロ) 年1～2回程度 ハ) 年3～4回程度 ニ) 2カ月に1回程度
ホ) 月1回程度 ヘ) 2週間に1回程度 ト) 週1回程度 チ) 週2回程度
リ) ほとんど毎日

5—S Q (この1年間に1回でも分館を利用した方に) あなたは分館をどんな用件で利用なさいましたか

(利用した用件に○印をつけたうえ、かよった回数の多い順に番号をつけて下さい。番号をうつのは5番目ぐら
いまでで結構です)

利用した用件	区 分		部 落 会 農 事 組 合		P T A 育 成 会		農 協 役 場		公民館分館 教育委員会		団 体 サークル	
	○印	番号	○印	番号	○印	番号	○印	番号	○印	番号	○印	番号
イ) 学習、講座(青年、婦人、家庭教育、社会、保健など)												
ロ) 研修会(社会関係、視察旅行など)講習(農機料理など)												
ハ) 講演会、映画会												
ニ) 研究会(農事、肥料など)発表会(農業実績など)読書会												
ホ) 座談会、座談会、説明会												
ヘ) 親睦会(新年会、新年会など)交流会(成人式、敬老会など)												
ト) 保健、体育、レクリエーション(祭典など)												
チ) 役員会												
リ) 総会、その他会合												

6 あなたは公民館分館の役員をしたことがありますか

- イ) したことがある(現在している人も含む) ロ) したことがない

7 あなたは部落又は農事組合の会館が分館に指定されてよかったと思いますか

- イ) よかったと思う ロ) たいしてかわりない ハ) 却ってわるいと思う ニ) わからない

8 分館が指定されてよかったと思う点が具体的にありますか

イ) ある ロ) ない

8—S Q (ある方に) よかったと思う点はどんな点ですか(次の項目からえらんで○印をつけ、うしろの()
内によかったと思う順に番号をふって下さい)

- イ) 学習のために集まる機会がふえた ()
- ロ) 指導助言者が以前よりひんばんに来てくれるようになった ()
- ハ) 部落会(農事組合)の運営のしかたが改善された ()
- ニ) レクリエーションのやり方がよくなった ()
- ホ) 他の部落(農事組合)との交流の機会がふえた ()
- ヘ) 中央館や地区館も観念のうえで利用しやすくなった ()
- ト) 施設設備が改善された ()
- チ) 奨励金がくるので活動がさかんになった ()
- リ) その他(具体的に書いて下さい) () ()

9 分館に指定されて却ってわるかったと思う点が具体的にありますか

イ) ある ロ) ない

9—S Q (ある方に) わるかったと思う点はどんな点ですか(次の項目からえらんで○印をつけうしろの()
内にわるかったと思う順に番号をふって下さい)

- イ) 学習の面が強くできて部落活動がかたくなるしくなった ()
- ロ) 部落(農事組合)活動によびだされる回数がふえた ()
- ハ) 町の発言がまして部落活動の自主性に影響を与えている ()
- ニ) 部落事務がはんざつになった ()
- ホ) 部落会館(農事組合)の間に差がでてきた ()
- ヘ) 地区館(小学校)との活動上の重複が目立つ ()
- ト) その他(具体的に書いて下さい) () ()

10 あなたはあなたの属する部落(農事組合)の公民館分館が、毎年部落(農事組合)の人々と相談して自主的な活動計画をたてていることを御存じですか

イ) 知っている ロ) 知らない

10—S Q (知っている方に) あなたは今年の分館の活動計画についてその一部分でも御存じですか

イ) 知っている ロ) 知らない

10—S Q (活動計画を少しでも知っている方に) その計画のなかで最もよくおぼえている活動の内容を具体的に書いて下さい)

11 あなたはあなたの属する部落(農事組合)の公民館分館を利用するにあたって「もっとこうしてほしい……、こうしたら……」というような希望や意見をおもちですか

イ) もっている ロ) もっていない

11—S Q (もっている方に) それはどんな点ですか、具体的に書いて下さい

12 もし部落や農事組合(分館)が独自で計画した講習会や講演会が部落だけの力ではできなくなった場合、あなたならどうしますか

イ) 農協に相談にゆく ロ) 教育委員会に相談にゆく ハ) 地区公民館(小学校)に相談にゆく
ニ) 高校に相談にゆく ホ) 計画をとりやめる ヘ) わからない ト) その他()

13 あなたは地区館(小学校におかれている公民館)はなんのためにあると思いますか

- イ) 校下の分館(部落、農事組合単位の公民館)を統括する
- ロ) 校下の子供会、PTA活動の指導助言など、学校教育に近い分野の公民館活動を担当する
- ハ) 分館をもたない部落(農事組合)住民が利用する
- ニ) わからない

14 公民館までの距離とその設備について次の四つの考え方があります。最もあなたの考えに近いものをえらんで一つだけ○をつけて下さい

イ) 町の中心から遠い人には不便だが、中心地に設備が非常に充実した公民館をたてるべきである

住民の公民館利用とその意識

- ロ) 中心以外の市街地の人々の利用も考えて、設備のかなりととのった公民館を主な市街地3～4カ所にたてるべきである
- ハ) 市街地の外に住む人々も利用しやすいように、設備は多少おとついても小学校区単位に公民館をおくべきである
- ニ) 僻地に住む人々も気がるに利用できるように、設備は不十分でも各部落又は農事組合ごとに公民館をおくべきである
- ホ) わからない

15 公民館は学習の場だと思いますか、レクリエーションの場だと思いますか。次の項目から一つだけえらんで○をつけて下さい

- イ) 公民館は学習の場でなくてはならず、学習を全面的にとりあげるべきだ
- ロ) 公民館は学習の場であることは望ましいが、当面はレクリエーションも部分的にとりあげるべきだ
- ハ) 当面レクリエーションをとりあげ、気運がでてきたら部分的に学習もとりあげていくべきだ
- ニ) 学習などとかたいことはいわずに、住民のたのしいこの場としてレクリエーションを今後のもっぱらとりあげていくべきだ
- ホ) わからない

16 町(教育委員会)はどのような考え方で分館に接してほしいと思いますか。次の項目から一つだけえらんで○をつけて下さい

- イ) 町は分館に対する経済的援助も指導助言もできる限り大幅に行なってほしい
- ロ) 町は経済的援助はできるだけ行なうが、指導助言はある程度ひかえて部落(農事組合)の自主性を尊重してほしい
- ハ) 活動上の経済的な面は部落(農事組合)段階でなんとかするが、指導助言は特に必要としておりその方に力を入れてほしい
- ニ) 分館活動は本来住民の自由な活動であるから、経済的な援助や指導助言を極力さけて住民自身の力で活動できるようにしてほしい
- ホ) わからない

17 部落活動と公民館活動はどこで線をひくべきだと思いますか

(次の中から公民館活動と思う項目には()の中に○印を、公民館活動には入らないと思う項目には×印をつけて下さい)

- | | | | |
|------------------------|-----|-----------------------|-----|
| イ) 営農計画、農産物販売等のうちあわせ | () | ロ) 防犯、防災活動 | () |
| ハ) 親睦会、交流会 | () | ニ) 部落会や農事組合加入者の相互扶助活動 | () |
| ホ) 老人クラブ活動 | () | ヘ) 子供会活動 | () |
| ト) 体位向上、体力増進を目的とする体育行事 | () | チ) PTA活動 | () |
| リ) 農協活動 | () | ヌ) レクリエーションを主とする遠足旅行 | () |
| ル) 生活改善事業 | () | ヲ) 農業改良事業 | () |
| ワ) 保健衛生活動 | () | カ) 公明選挙運動 | () |
| ヨ) 交通安全活動 | () | | |

18 ところで農業に対する人間としての態度として次の四つの考え方の中でどれがあなたの考えに最も近いですか^{注)}

- イ) 農業はいわば天からさずかった職業であって、国の基礎をつくる最も大切な職業である。だから農業は多少苦しいことがあっても代々家をついで食糧の生産にあたることこそ、人間として最も大切なことである
- ロ) いまの社会では農業も企業として成り立たなくてはならぬ。企業として農業がなりたないはもっと有利なほかの職業にどんどん移って生活をたてることこそ、人間としてとをべきおこないである
- ハ) 農業を天からさずかった職業だとも思わないが企業だとも思わない。ほかによい仕事がないとき農業をして生活をたてるのは人間としてあたりまえのことだ
- ニ) 農業は天からさずかった職業ではないがやはり大切な職業である。いまの社会の中でどうしたら企業としてなりたつか真剣に考えていくことこそ人間として大切なことだ
- ホ) わからない

19 あなたは農業のあとつぎ問題がおこる最大の原因は何だと思いますか

- | | | |
|--------------|----------------|-----------------------|
| イ) 農業政策の貧困 | ロ) 日本農業の本来的零細性 | ハ) 農産物の収穫、収益の不安定性 |
| ニ) 農業経営者の無理解 | ホ) 若い人々の自覚の不足 | ヘ) 農業そのものに対する社会的評価の低さ |
| ト) 農村家庭の封建性 | チ) 農村社会の非合理性 | リ) 農業労働のきびしさ |

ヌ) その他 ()

20 あなたは農業に父子契約というものがあるのを御存じですか

イ) 知っている ロ) 知らない

20—S Q (知っている方に) それはどこで知りましたか

イ) ラジオ, テレビ ロ) 新聞, 雑誌, 本 ハ) 学級, 講座, 講演 ニ) 団体, サークル
ホ) 視察旅行の際 ヘ) 農業(生活)改良普及員 ト) 公民館主事, 社会教育主事 チ) 学校の先生
リ) 家族, 親戚 ヌ) 隣人, 学友, その他友人 ル) その他 ()

20—S Q (家が農家の方に) あなたが父子契約を採用することについてどう思いますか

イ) 是非やりたいと思うし実現性もある ロ) やりたいと思うが現実性がうすい
ハ) あまり気がすすまないが採用もありうる ニ) そんなことをやりたくもないし実現性もない
ホ) わからない

21 (家が農家の方に) あなたのお家の個人経営体の農業を会社のようなそしきにすることをどう思いますか

イ) 是非やりたいと思うし実現性もある ロ) やりたいと思うが実現性がうすい
ハ) あまり気がすすまないが採用もありうる ニ) そんなことをやりたくもないし実現性もない
ホ) わからない

22 (家が農家の方に) あなたのお家の農業のおかれた現実から判断して, 農業の共同化についてどう思いますか

イ) 共同化に賛成だし実現性もある ロ) 共同化に賛成だが実現性がうすい
ハ) 共同化に反対だが採用せざるをえないだろう ニ) 共同化には反対だし実現もしないだろう
ホ) わからない

23 今かりに町で自由に使うことのできる金が五千万円あったとしたら, あなたは何に使ったらよいと思いますか

(次の中から三つだけえらんで○をつけて下さい)

イ) 道路整備 ロ) 農地の改良 ハ) 工場誘致のための用地確保
ニ) 防災施設, 準備の充実 ホ) 公園の整備 ヘ) 部落会館, 農事組合会館の充実
ト) 幼稚園, 保育所の増加 チ) 社会福祉施設の充実 リ) 学校施設, 設備の充実
ヌ) 公民館, 図書館の建設 ル) 博物館, 郷土館の建設 ヲ) 青年の家の建設
ワ) 農業センターの建設 カ) その他 ()

24 あなたはどのような人を人間として最も尊重しますか

イ) 家柄がよい人 ロ) 多くの財産をもっている人
ハ) あなたの身近な問題を解決するいろいろな権限をもっている人
ニ) よくはたらく人 ホ) 高い技術をもっている人 ヘ) 合理的な考えをもっている人
ト) 新しいものをどんどんとりいれる人 チ) 正直で誠実な人 リ) 広い知識をもっている人
ヌ) 人のことに心をくだく人 ル) その他 ()

25 あなたが得たいと思う知識技術は何ですか。次の中のいくつかに○をつけたうえ, 特にこれだと思ふものに◎をつけて下さい

イ) 洋裁, 和裁 ロ) 経営の知識 ハ) 家計のやりくりのしかた
ニ) 奉仕活動のやり方 ホ) 編物, 手芸 ヘ) 法律の知識
ト) 人をうまくまとめていく方法 チ) 楽器のひき方 リ) 料理, 栄養
ヌ) 医学, 衛生の知識 ル) 他人と心よく接していく方法 ヲ) 絵のかき方
ワ) お花, お茶 カ) 社会, 経済の知識 ヨ) すぐ役にたつ農業技術
タ) 木ぼり, 彫刻のやり方 レ) 書道, ペン字 ソ) スポーツ知識
ツ) 農業生産の基礎になる数学や理科の知識 ネ) 自動車運転技術
ナ) 簿記, 珠算 ラ) 町や部落の歴史 ム) スポーツ技術
ウ) 一般的教養 ケ) 礼儀, 作法 ノ) 子供のしつけ方
オ) 何かの資格をとる→その内容 () ク) 英会話, 外国語
ヤ) 家計簿のつけ方 マ) その他 () ケ) 特になし

25—S Q (とりわけ得たい知識知識技術がある方に) その知識技術(問25で◎をつけた項目)をあなたはさしあたりどこで学びたいと思っていますか

イ) 高等学校 ロ) 各種学校 ハ) 農業学園 ニ) 青年学級, 婦人学級, 家庭教育学級
ホ) 農業講座, 講習 ヘ) 生活講座講習 ト) 衛生講習, 講座 チ) ラジオ講座
リ) テレビ講座 ヌ) 高校通信教育 ル) 大学通信教育 ヲ) 社会通信教育

住民の公民館利用とその意識

- ワ) 図 書 カ) 新聞、雑誌 ヨ) リーダー講習 タ) 青年団体，婦人団体，他サークル
レ) ボランティア講座 ソ) その他（ ） ツ) きめていない

26 あなたは栗山町に何年住んでいますか

- イ) 生まれてからずっと ロ) 40年以上 ハ) 30年～40年未満 ニ) 20年～30年未満
ホ) 10年～20年未満 ヘ) 5年～10年未満 ト) 5年未満 チ) その他 ()

27 あなたはこの1年間に何回ぐらいの割合で栗山市街に行きましたか

- イ) 1度も行かない ロ) 年1～2回程度 ハ) 年3～4回程度 ニ) 2カ月に1回程度
ホ) 月1回程度 ヘ) 月2回程度 ト) 週1回程度 チ) 週2回程度
リ) 週3回程度 ス) ほとんど毎日 ル) 1日何回も

27—SQ (この1年間に1回でも行った方に) 栗山市街に行く際利用する主な交通機関は何ですか

- イ) 徒 歩 ロ) 自転車 ハ) 二輪自動車（原動機付自転車も含む） ニ) 自家用車（三輪車，四輪車）
ホ) バス ヘ) 汽 車 ト) その他（ ）

フェースシート

1 性別 男 女		2 年齢(昭和43年1月現在 満 歳)		14 (農家の方に) 農業外収入の有無 農業外収入あり 農業外収入なし	
3 結婚 未婚 既婚		4 家族人数(あなたも含めて 人)		(農業外収入のある方に) その規模 農業収入を→上廻る 下廻る	
5 世帯主(あなたとの関係)			6 年齢別家族人数 0~14歳 人 15~29歳 人 30~44歳 人 45~59歳 人 60歳以上 人	15 最終学歴 旧制 小卒 高小卒 中卒 専門学校 太学卒	
7 農業 商業 その他の自営業 現在の職業 公務員 教員 会社員 工員 店員 職人 主婦 学生 生徒 労働者 その他()				中卒 定時制高校農業科卒 定時制高校普通科卒 短大 新制 全日制高校家政科卒 全日制高校普通科卒 太学卒	
8 (農業従事者の方に) その主な立場 農業経営者 あとつぎ 家族従事者 農業労働者 その他()				16 各種学校の利用の有無 イ) 利用したことあり ロ) 現在利用している ハ) 利用したことがない	
10 (農業従事者の方に) 冬期間の主な過ごし方 イ) 農作業の後仕末と次の営農準備 ロ) 自宅からアルバイトに出かける ハ) 各種学校にかよう ニ) 農業学園にゆく ホ) 休養をとる ヘ) その他()				17 (現在・過去の各種学校利用者の方に) その修業年限(最も長かつた学校) イ) 3年未満 ロ(2年~5年未満 ハ) 1年~2年未満 ニ) 半年 ホ) 3カ月 ヘ) 3カ月未満 ト) その他()	
12 (家が農家の方に) 土地の利用状態				18 利用した(現に利用している) 各種学校課程名 イ) 自動車 ロ) 編物, 手芸 ハ) 洋裁 ニ) 和裁 ホ) 簿記 ヘ) タイプ ト) 理容 チ) 美容 リ) その他()	
9 (主婦の方に) その主な立場 イ) 専計をまかされている ロ) 家計を一部まかされている ハ) ほとんどまかされていない			19 お宅にある交通機関(あるだけ全部) イ) 自転車 ロ) 原動機付自転車 ハ) 二輪自動車 ニ) 四輪貨物自動車 ホ) 四輪乗用車 ヘ) その他() ト) なし		
10 あなたの家は農家ですか 農家 非農家			20 自動車運転免許証の有無 イ) もつていない ロ) もつている→その種類 ハ) 特殊 ニ) その他		
11 3 年間 粗 収 入 イ) 50万円以下 ロ) 50~100万円 ハ) 100~150万円 ニ) 150~200万円 ホ) 200~250万円 ヘ) 250~300万円 ト) 300~350万円 チ) 350~400万円 リ) 400~500万円 ヌ) 500~600万円 ル) 600万円以上			21 あなたの入っている団体 サークル(空欄に団体名をいれて下さい) 1 地域団体 4 生産団体 2 農協関係団体 5 趣味の団体 3 奉仕団体 6 その他 サークル		
13 所有総面積 ha 畑地 ha 山林 ha 水田 ha 農地 ha 草地 ha その他 ha 樹地 ha その他 ha			22 読んでいる新聞 読んでいる週刊誌		

注) この質問項目及び選択肢は、布施鉄治著『現代における「むら」と農民の変容過程』—村落社会研究第一集— P142 にでている質問項目、及び選択肢をそのまま引用した。